未定稿

令和8年度奥州市男女共同参画に関するアンケート報告書

令和　年　月

奥州市協働まちづくり部
地 域 づ く り 推 進 課

令和８年度奥州市男女共同参画に関するアンケート報告書

目　次

１．アンケート調査の概要 1

２．アンケート回答者の基本属性 2

３．アンケート結果 5

Ⅰ．男女共同参画社会について 5

Ⅱ．仕事と家庭・社会活動の優先度について 20

Ⅲ．女性の就労について 26

Ⅳ．ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）などについて 29

Ⅴ．性的少数者（セクシュアルマイノリティ、ＬＧＢＴ）について 32

Ⅵ．固定的性別役割分担意識（ジェンダー・バイアス）について 35

Ⅶ．男女共同参画社会に関する行政への要望について 47

１．アンケート調査の概要

調　査　名　称	令和８年度奥州市男女共同参画に関するアンケート
調　査　目　的	第２次奥州市男女共同参画計画が令和８年度末で終了することから、市民の男女平等や男女の役割分担等に関する意識の変化と生活実態等を把握し、今後の男女共同参画社会づくりの参考資料とする。
調　査　項　目	① 回答者自身や家族について ② 男女共同参画社会について ③ 仕事と家庭・社会活動の優先度について ④ 女性の就労について ⑤ ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）などについて ⑥ 性的少数者（セクシュアルマイノリティ、ＬＧＢＴ）について ⑦ 固定的性別役割分担意識（ジェンダー・バイアス）について ⑧ 男女共同参画社会に関する行政への要望について
調　査　方　法	標本調査（要求精度±５％、95%信頼水準）
調　査　対　象	住民基本台帳から、地区、男女別及び年齢階層別の過去の回答割合を考慮した層化無作為抽出により、市内在住の満 18 歳以上の男女 1,300 名を抽出
調　査　期　間	令和８年４月 27 日（月）～令和８年５月 31 日（日）
回　答　方　法	調査表を郵送し、郵送またはＷＥＢ（インターネット）による回答
回　収　状　況	発送数 1,300 票 回収数 472 件（郵送分 318 件、ＷＥＢ分 154 件） 回収率 36.3％

報告書を読む際の留意事項

・比率（パーセンテージ）の表記は、小数点第２位以下を四捨五入しているため、比率の合計が 100%とならいない場合があります。

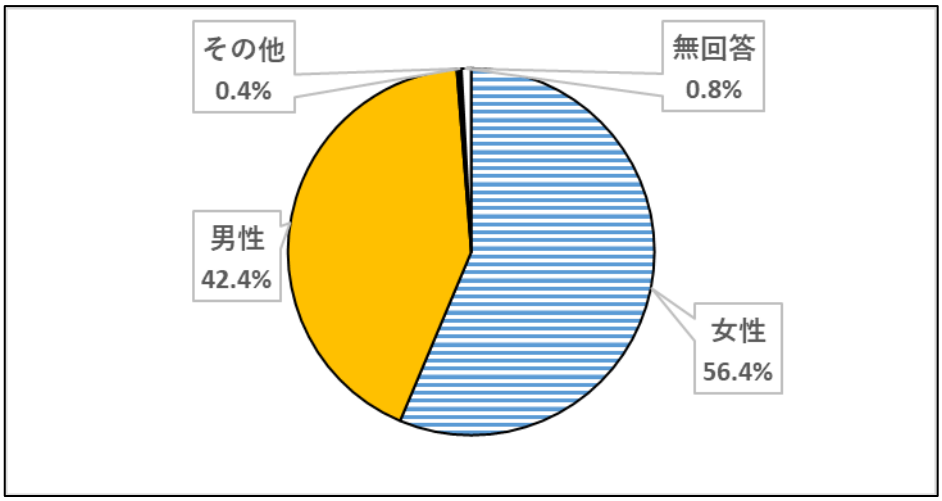
・図表中にある「ｎ」は設問の回答者数を示しています。

2．アンケート回答者の基本属性

■性別

女性	266
男性	200
その他	2
無回答	4
計	472

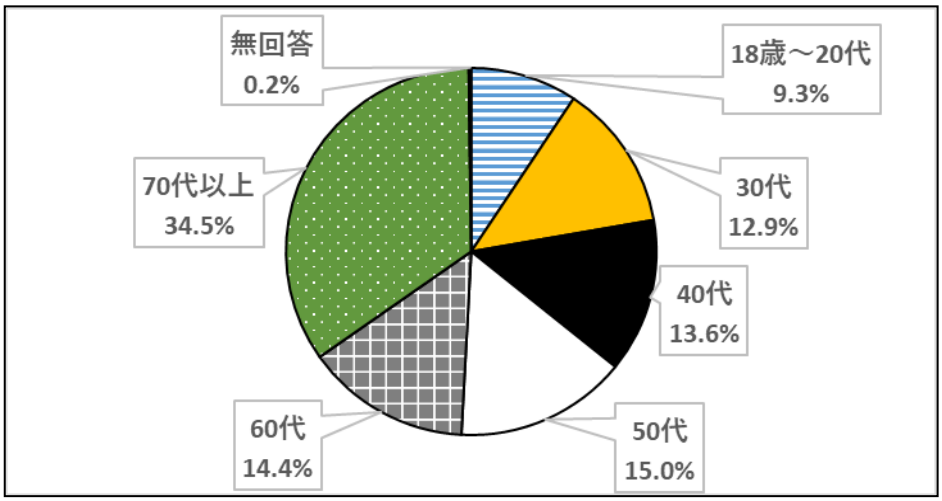
（単位：人）



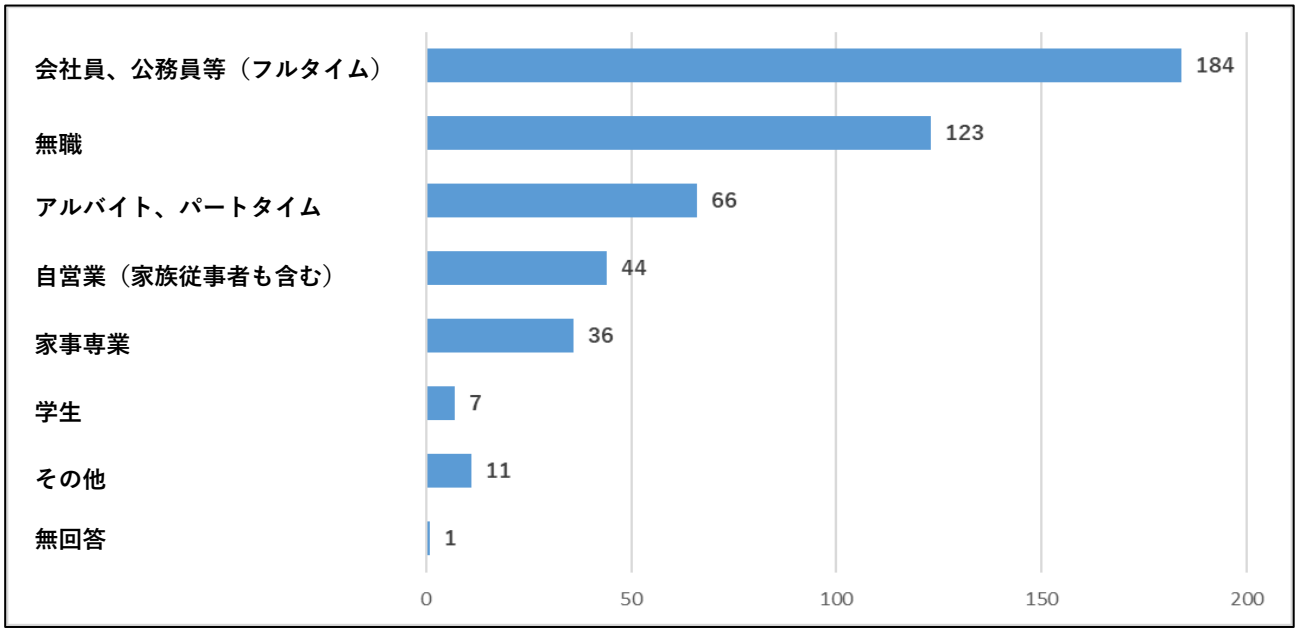
■年齢

18 歳～20 代	44
30 代	61
40 代	64
50 代	71
60 代	68
70 代以上	163
無回答	1
計	472

（単位：人）



■職業

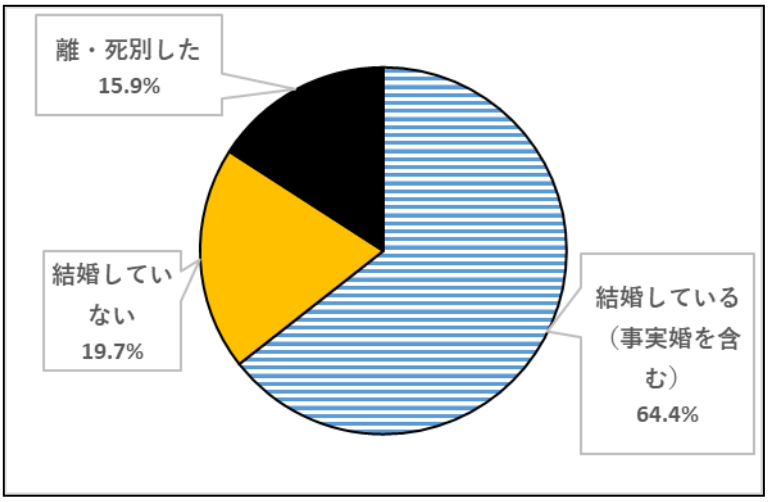


（単位：人）

■既婚・未婚・離（死）別の構成

結婚している（事実婚を含む）	304
結婚していない	93
離・死別した	75
計	472

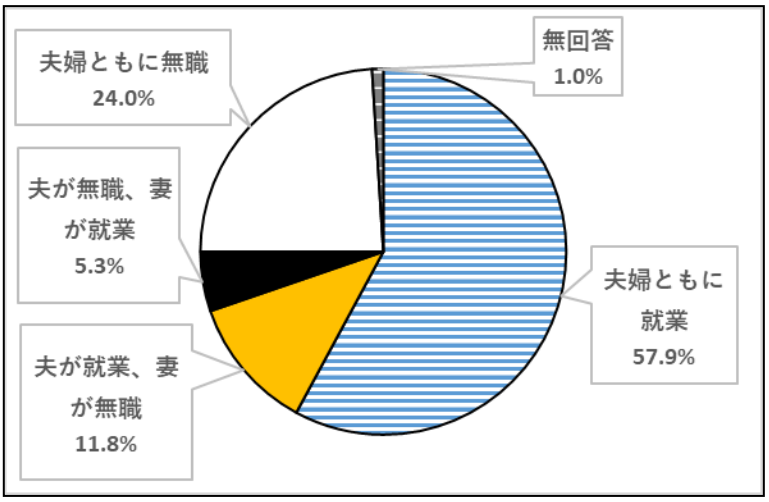
（単位：人）



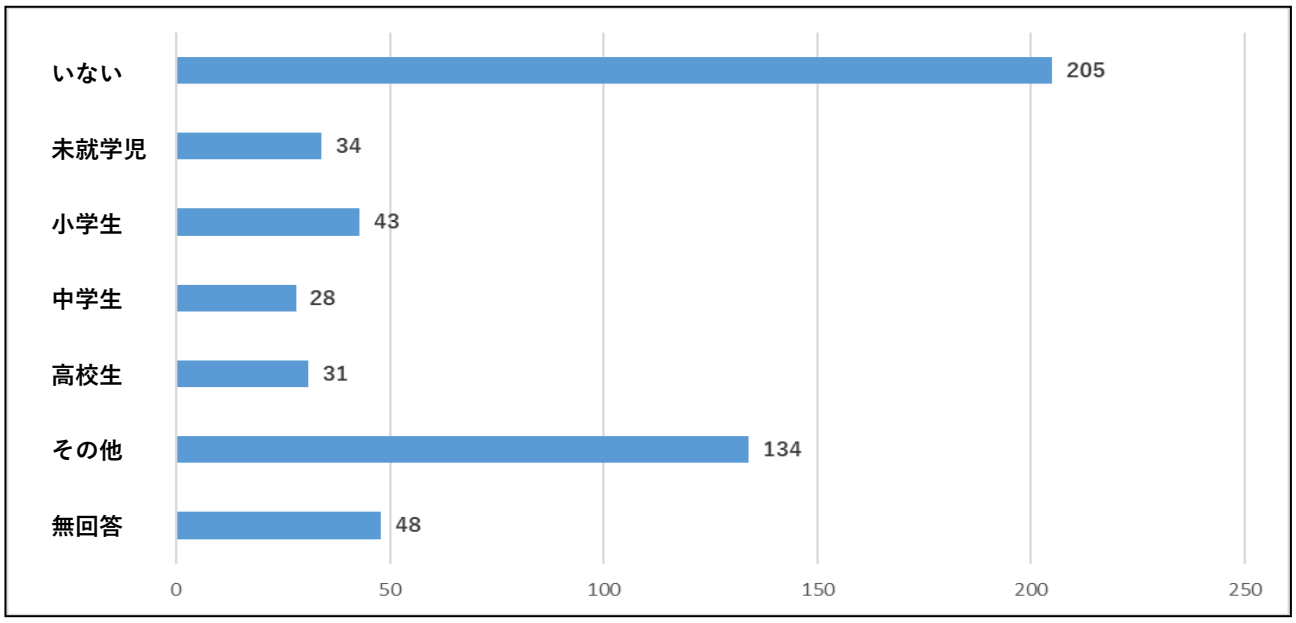
■夫婦間の就業状況について

夫婦ともに就業	176
夫が就業、妻が無職	36
夫が無職、妻が就業	16
夫婦ともに無職	73
無回答	3
計	304

（単位：人）



■同居している子供（n=472）

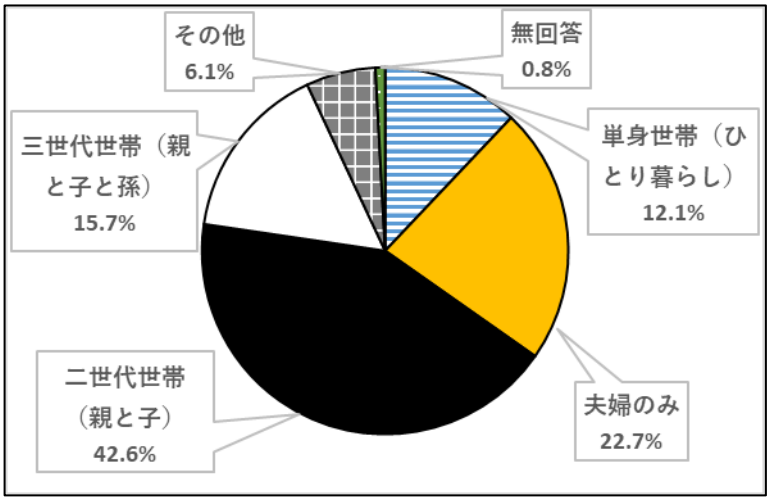


（単位：人）

■家族構成

単身世帯（ひとり暮らし）	57
夫婦のみ	107
二世代世帯（親と子）	201
三世代世帯（親と子と孫）	74
その他	29
無回答	4
計	472

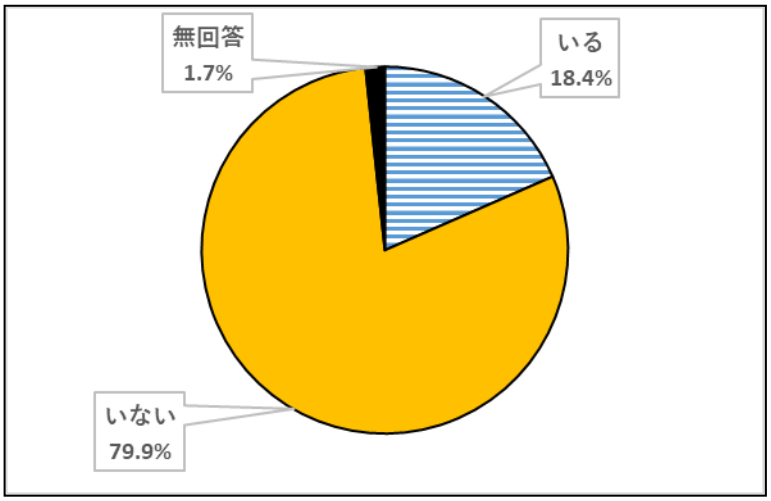
（単位：人）



■世帯における要介護者の有無

いる	87
いない	377
無回答	8
計	472

（単位：人）



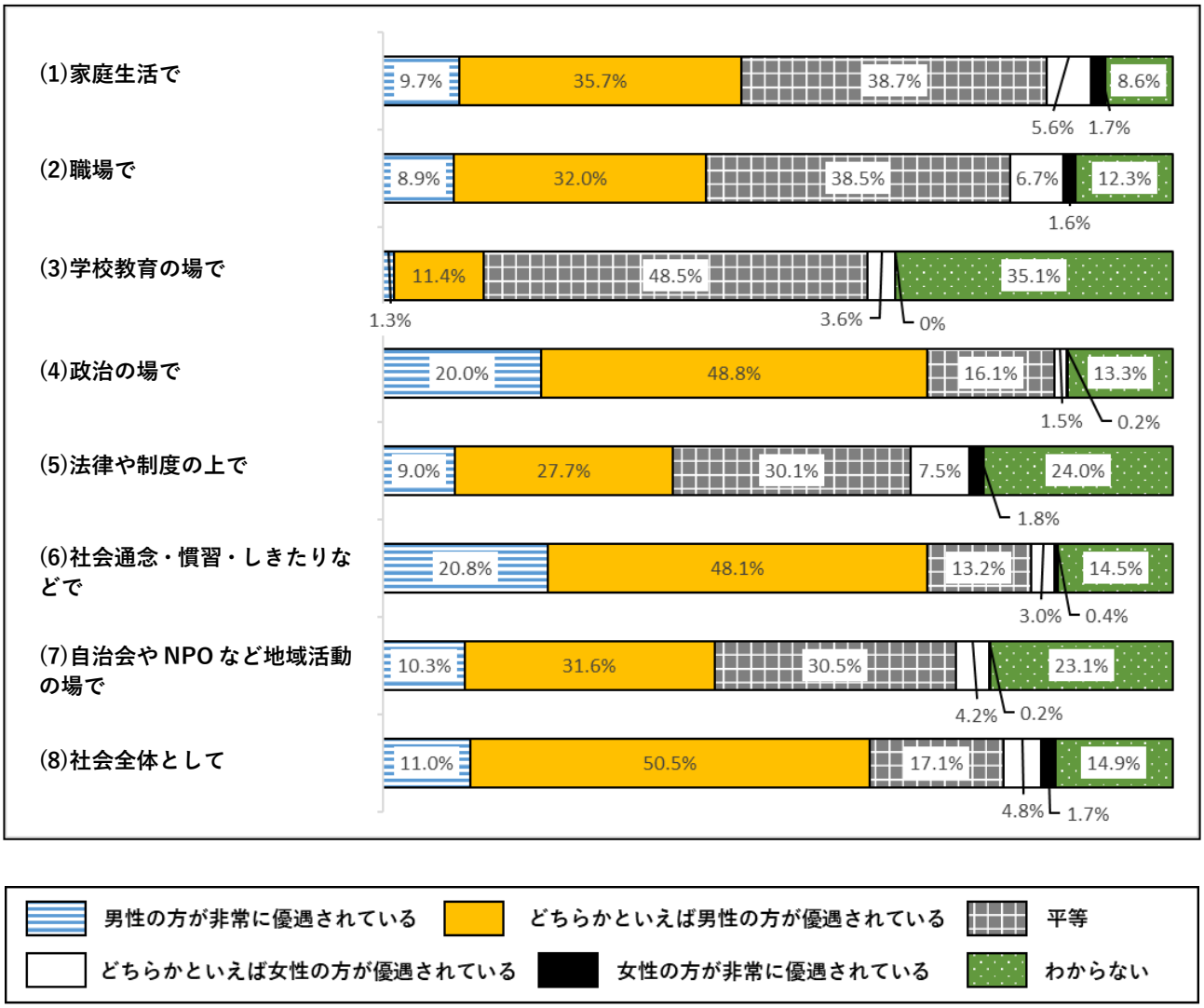
３．アンケート結果

＜Ⅰ．男女共同参画社会について＞

設問１　次の各分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(1)から(8)までについて、あなたの気持ちに最も近いものを１つ選んでください。

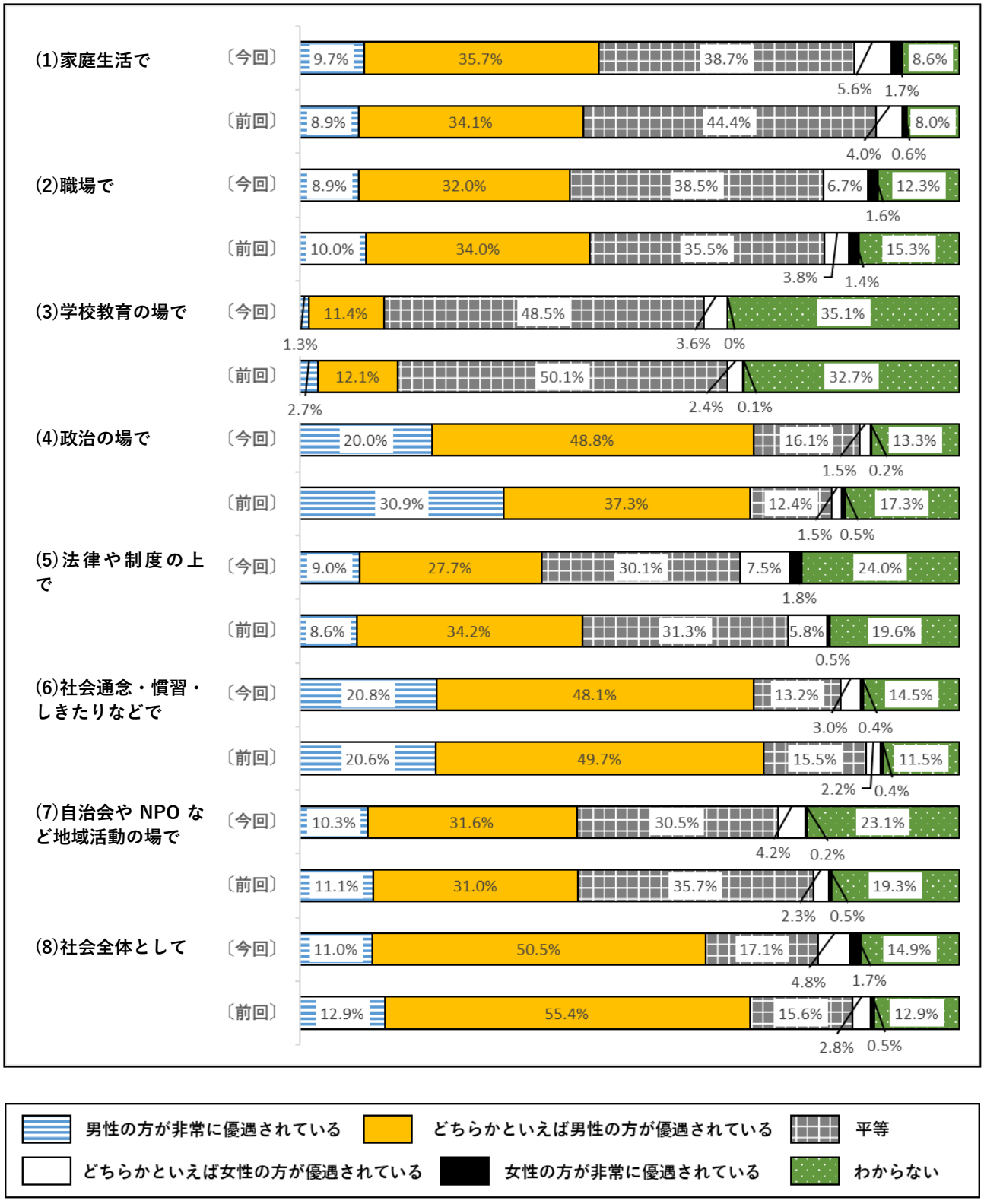
①今回調査

「政治の場で」「社会通念・慣習・しきたりなどで」「社会全体として」の分野において、「男性の方が優遇されている」（「男性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）と答えた者の割合が、６割を超えている。（前回調査との比較、男女別、男女別の前回調査との比較、年代・分野別の結果については別頁に示す）



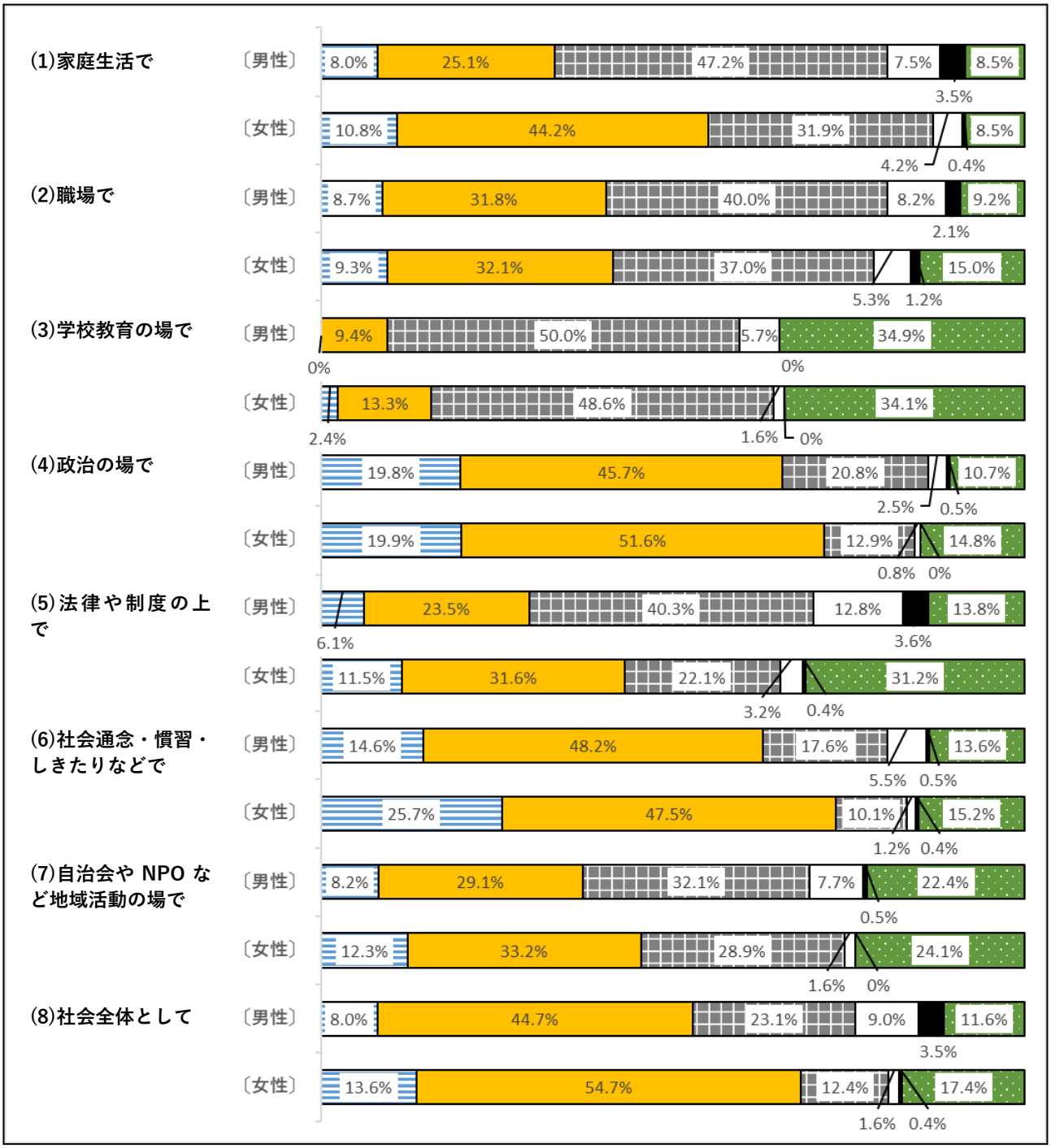
②前回調査（n=993）との比較

前回調査に比べ「男性の方が優遇されている」と答えた者の割合が、「法律や制度の上で」の分野で 6.1 ポイント、「社会全体として」の分野で 6.8 ポイント、それぞれ減少している。一方「家庭生活で」の分野では 2.4 ポイント増加している。



③男女別

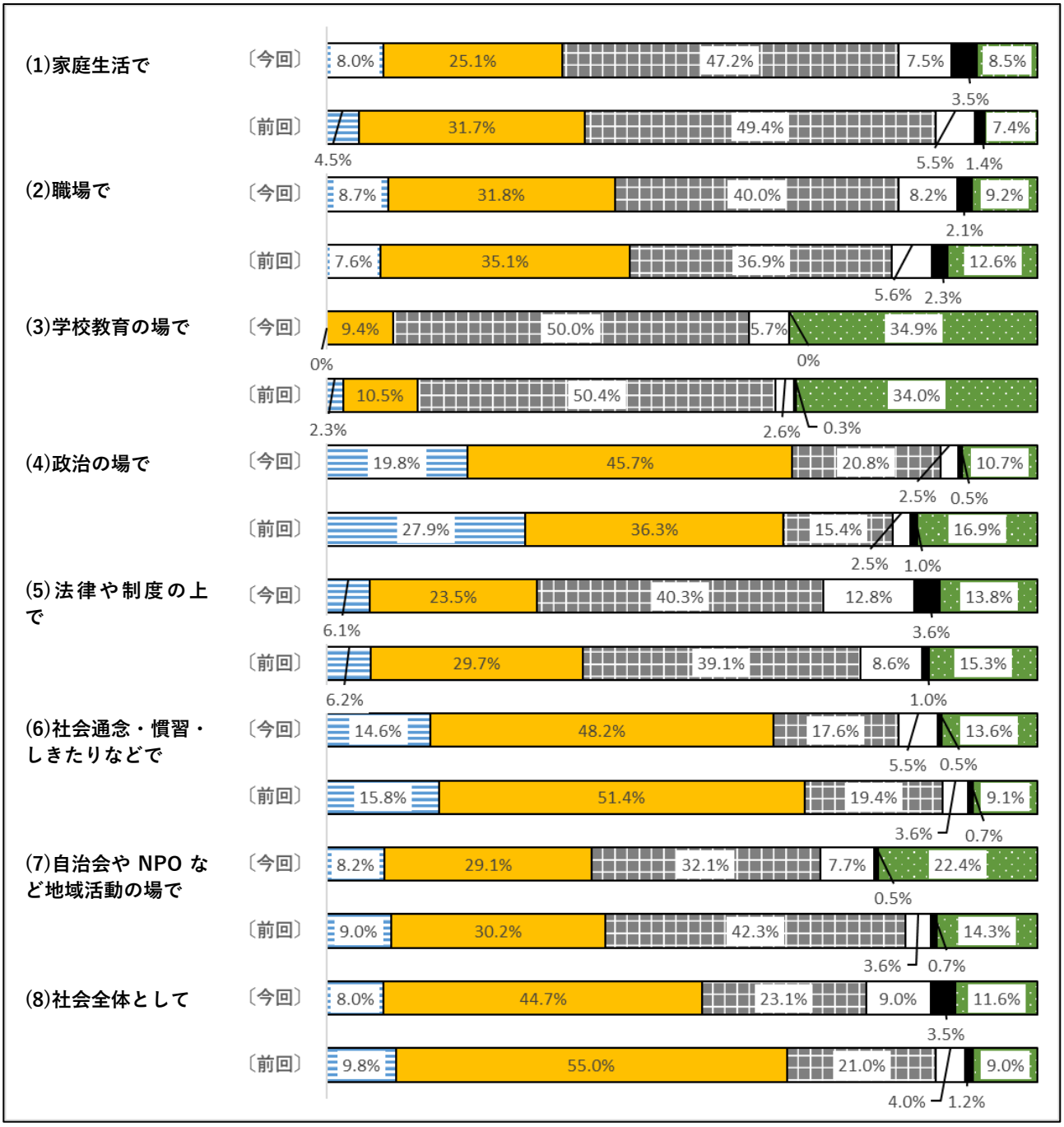
男女別にみると、「男性の方が優遇されている」と答えた者の割合は、「家庭生活で」が 21.9 ポイント、「社会全体として」が 15.6 ポイント、「社会通念・慣習・しきたりなどで」が 10.4 ポイント、それぞれ女性の方が多くなっている。



④男女別の前回調査との比較

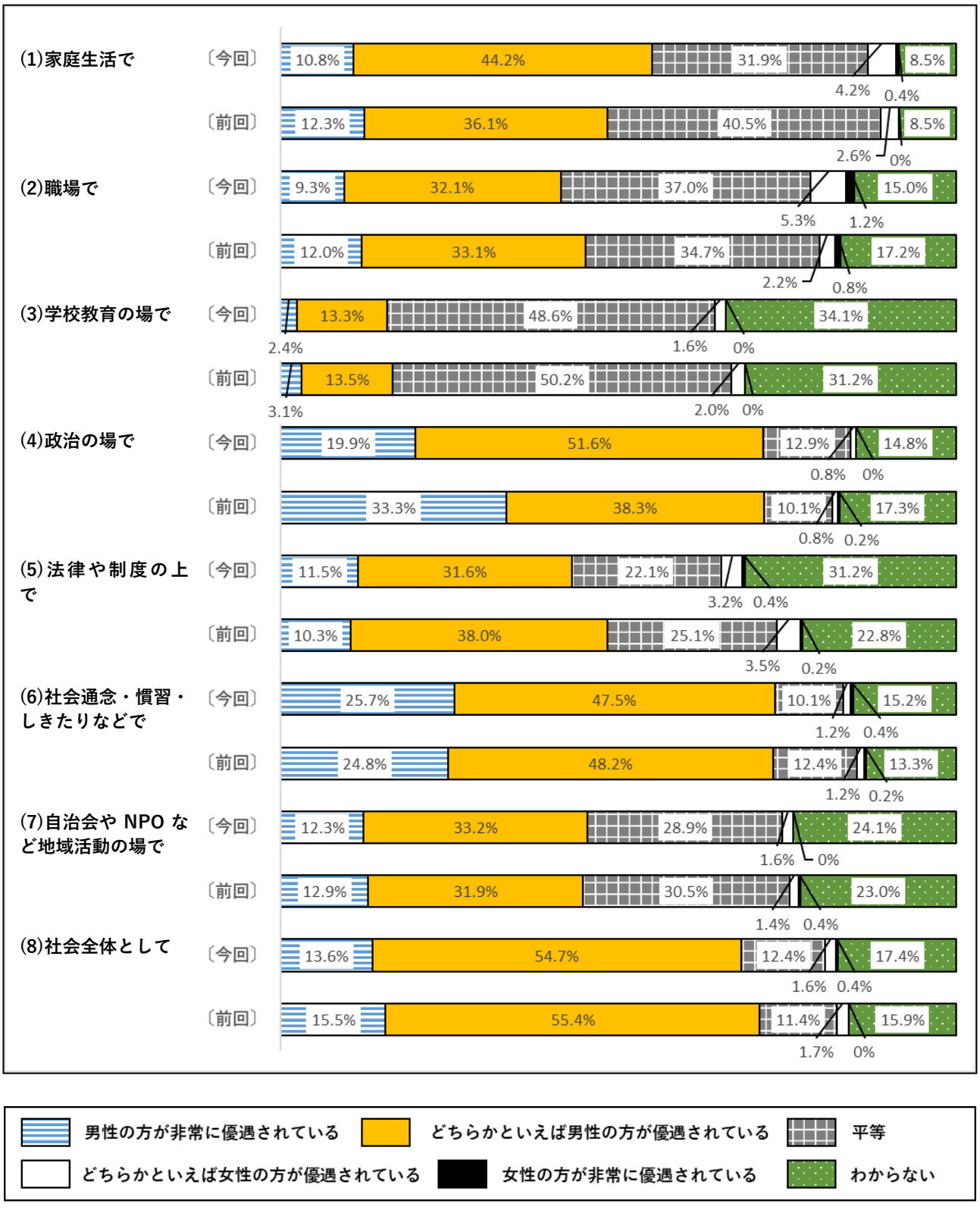
男性

男性の前回調査との比較では、「社会全体として」の分野で「男性の方が優遇されている」と答えた者の割合が 12.1 ポイント減少している。



女性

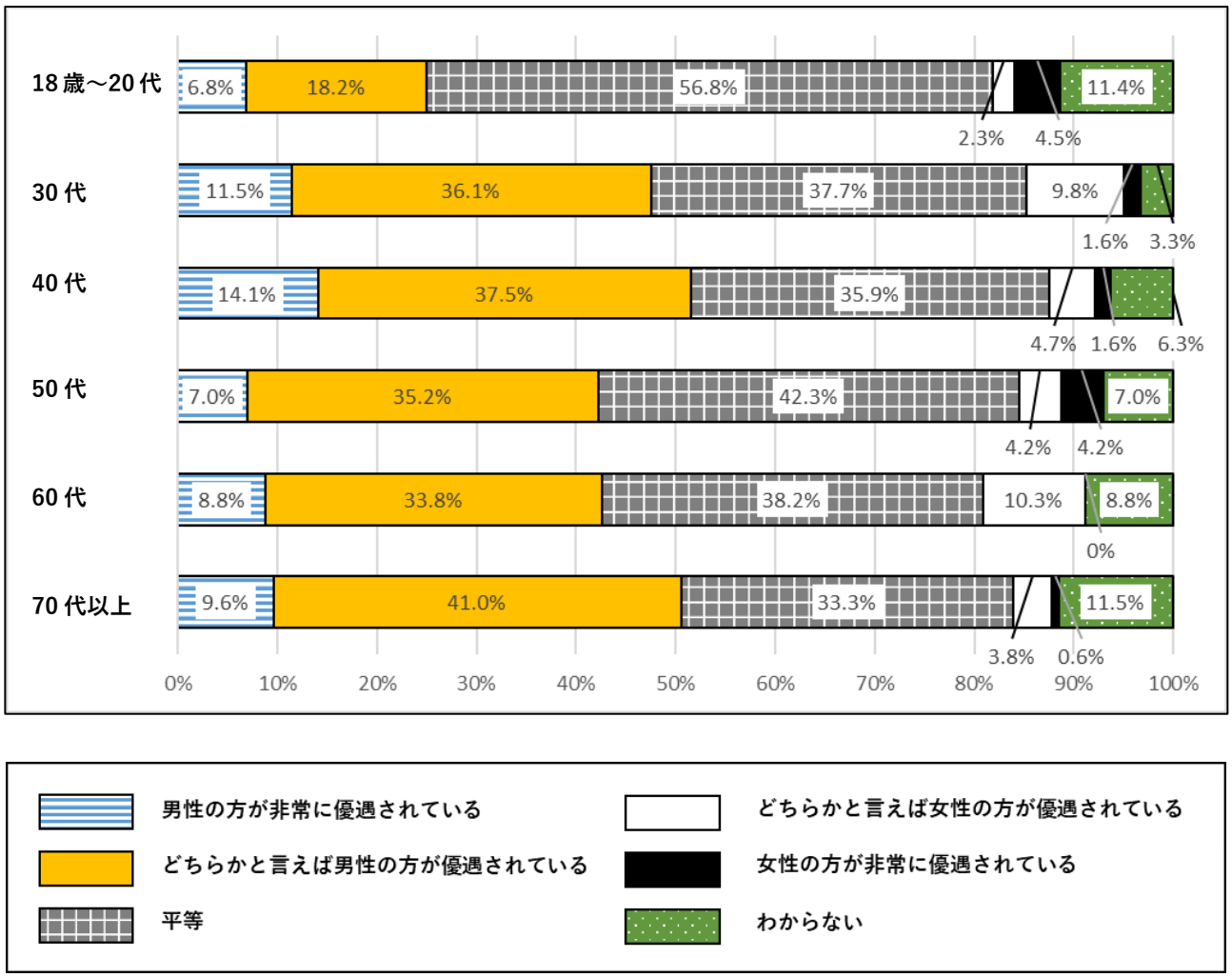
女性の前回調査との比較では、「家庭生活で」の分野で「男性の方が優遇されている」と答えた者の割合が 6.6 ポイント増加している。



⑤年代別

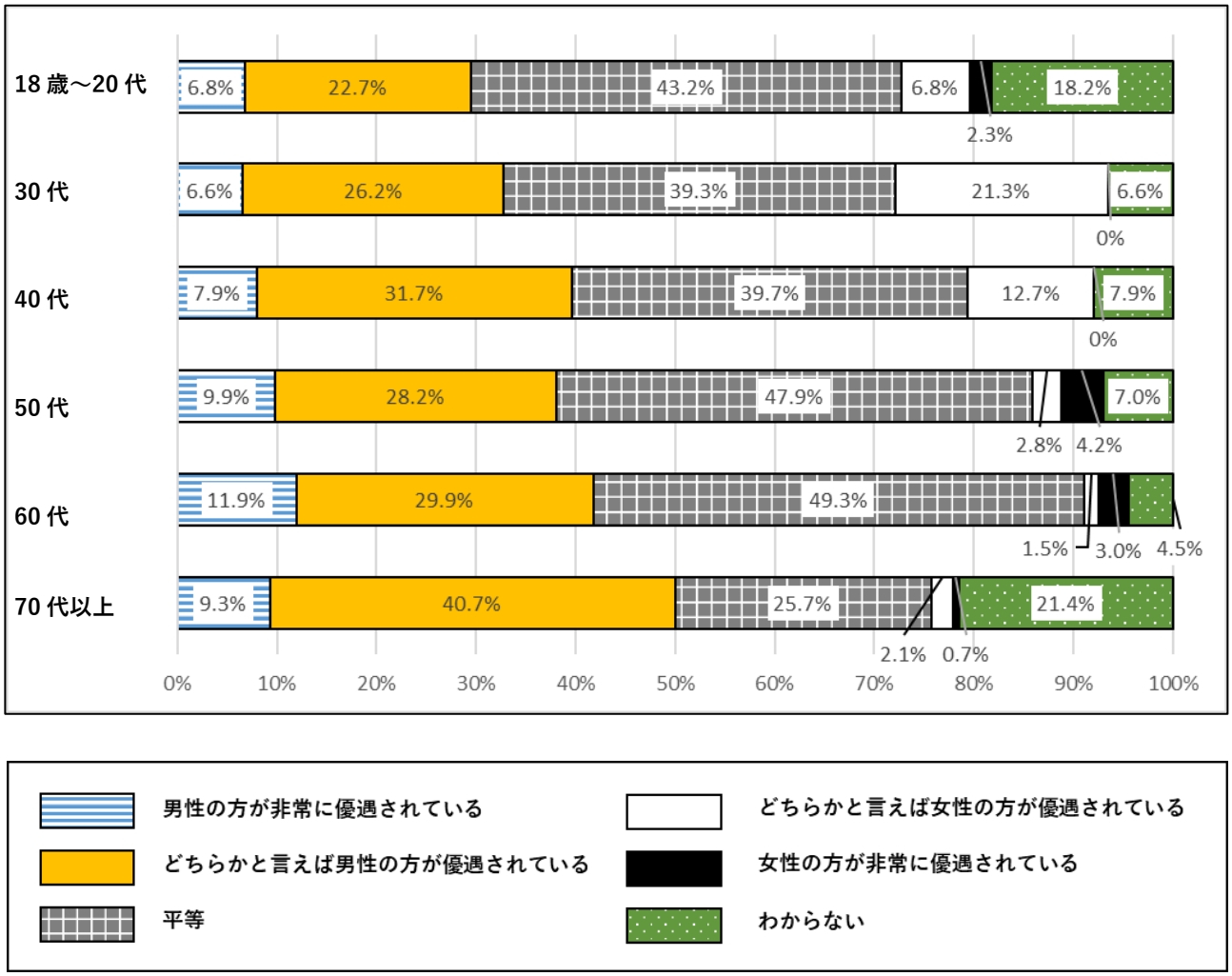
(1)家庭生活で

30 代以上では、「男性の方が優遇されている」と答えた者の割合が高く、「18 歳～20 代」では「平等」（56.8%）が最も高くなっている。ただし、「50 代」では「男性の方が優遇されている」と答えた者と「平等」と答えた者の割合は同じである。



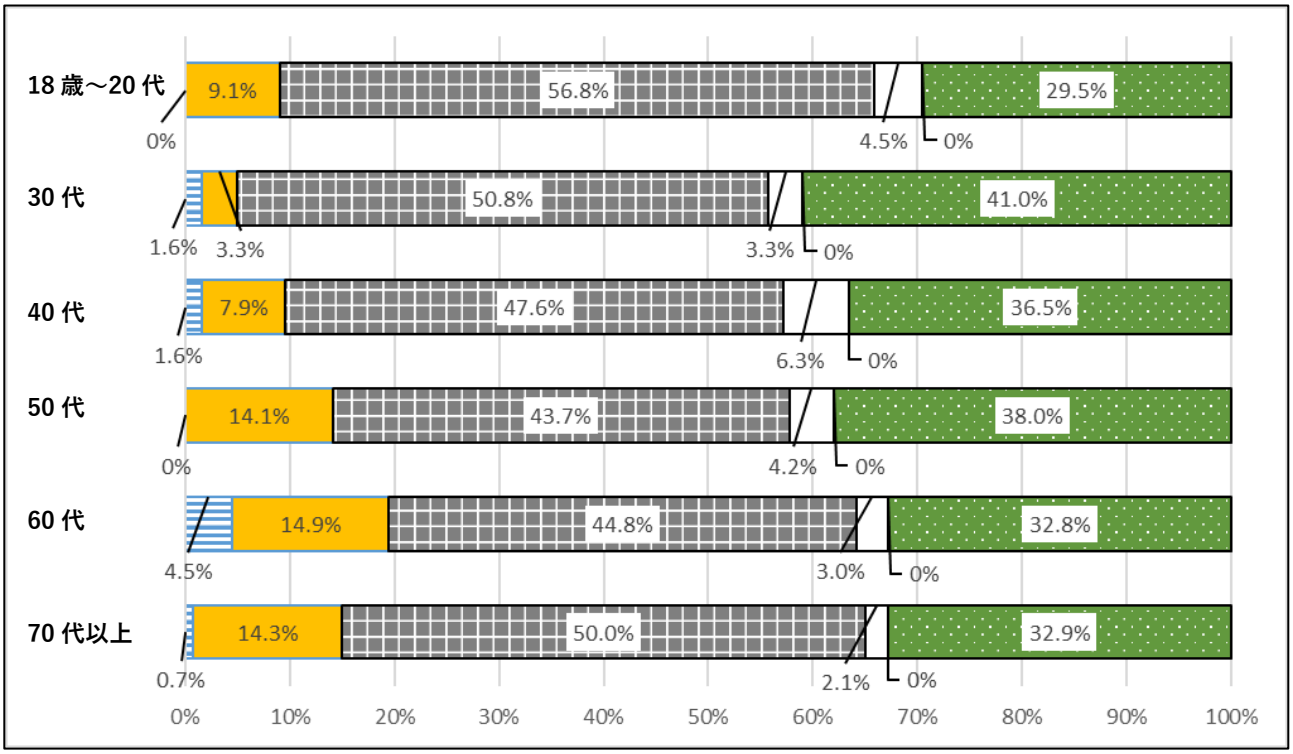
(2)職場で

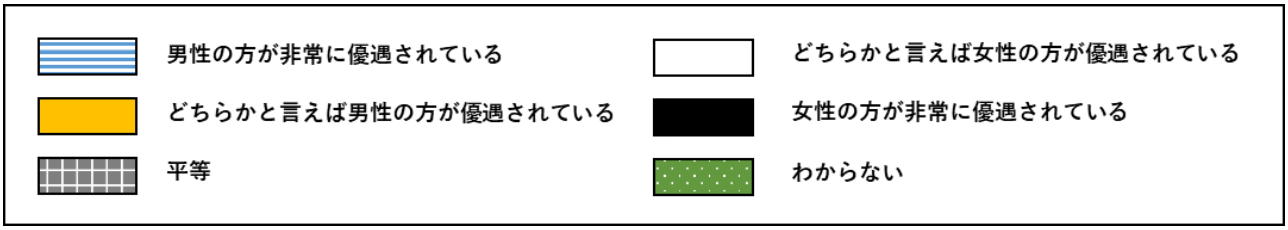
「70 代以上」では「男性の方が優遇されている」と答えた者の割合（50.0%）が最も高く、それ以外の年代では「平等」と答えた者の割合が高くなっている。ただし、「40 代」では「男性の方が優遇されている」と答えた者と「平等」と答えた者の割合は同じである。



(3)学校教育の場で

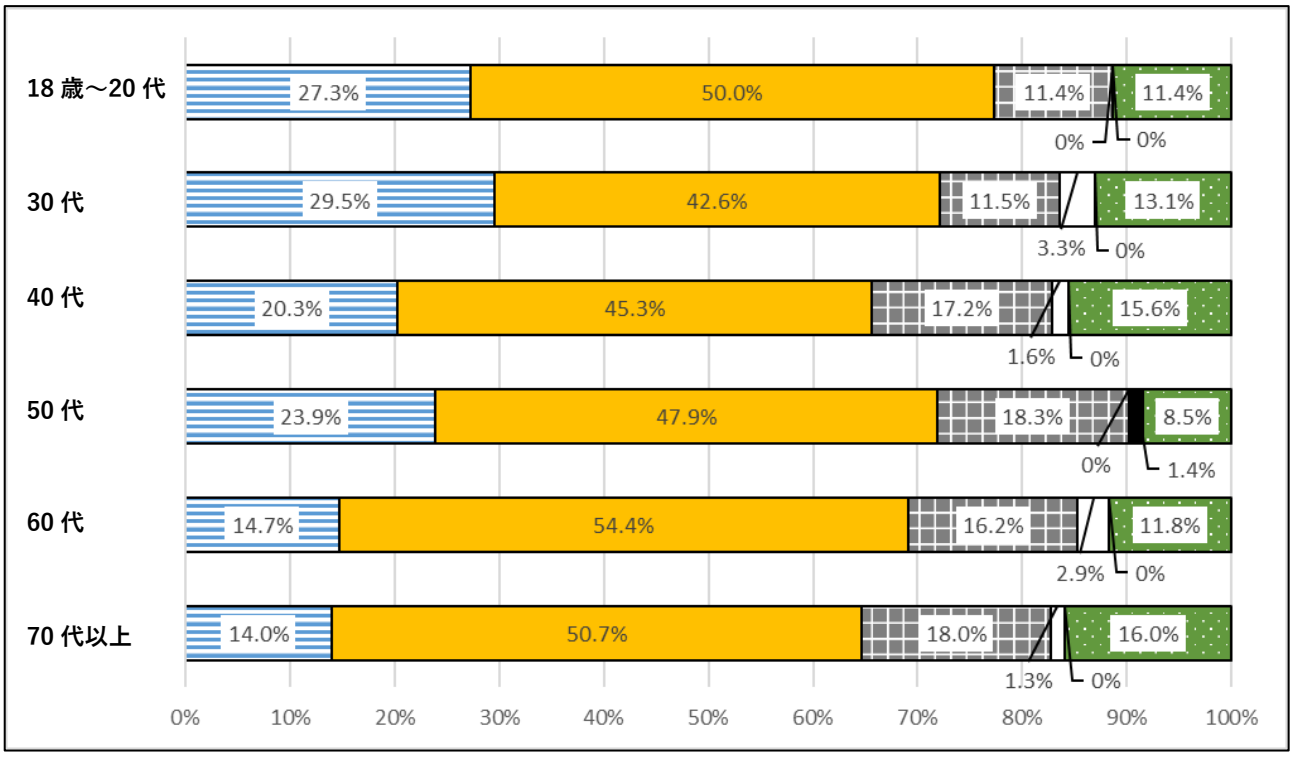
すべての年代において「平等」と答えた者の割合が最も高くなっている。

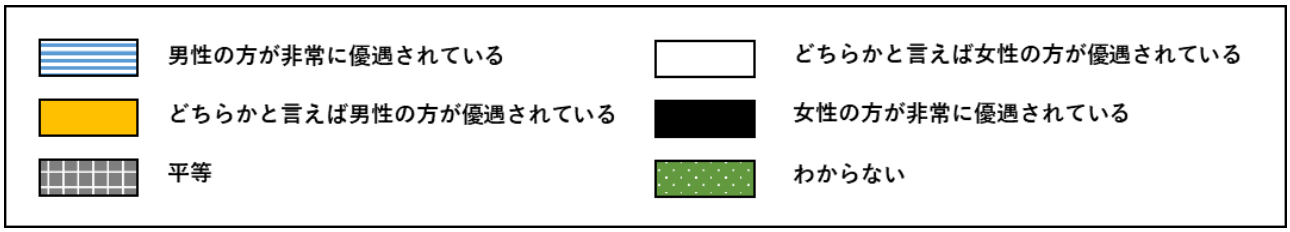




(4)政治の場で

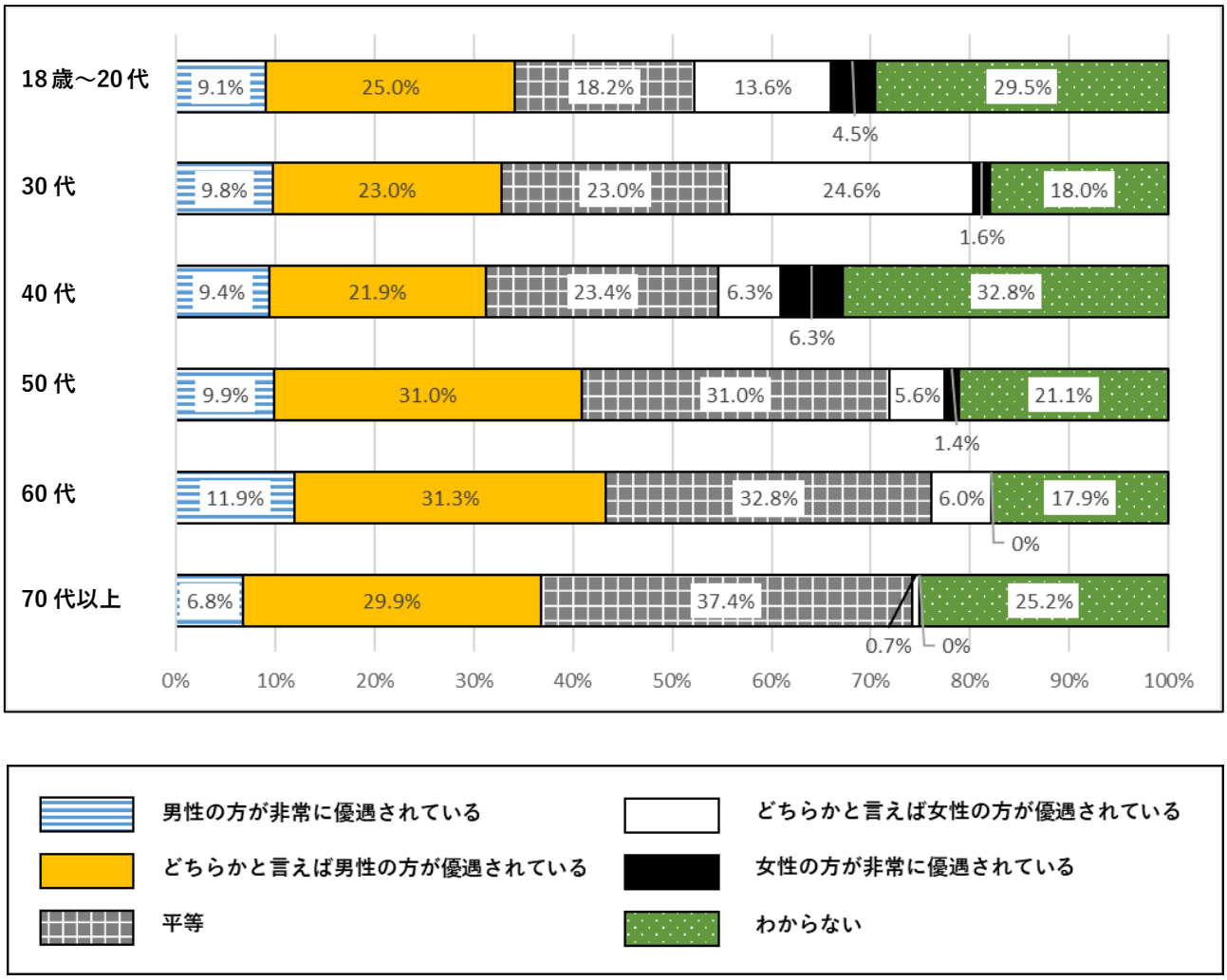
すべての年代において「男性の方が優遇されている」と答えた者の割合が最も高くなっている。





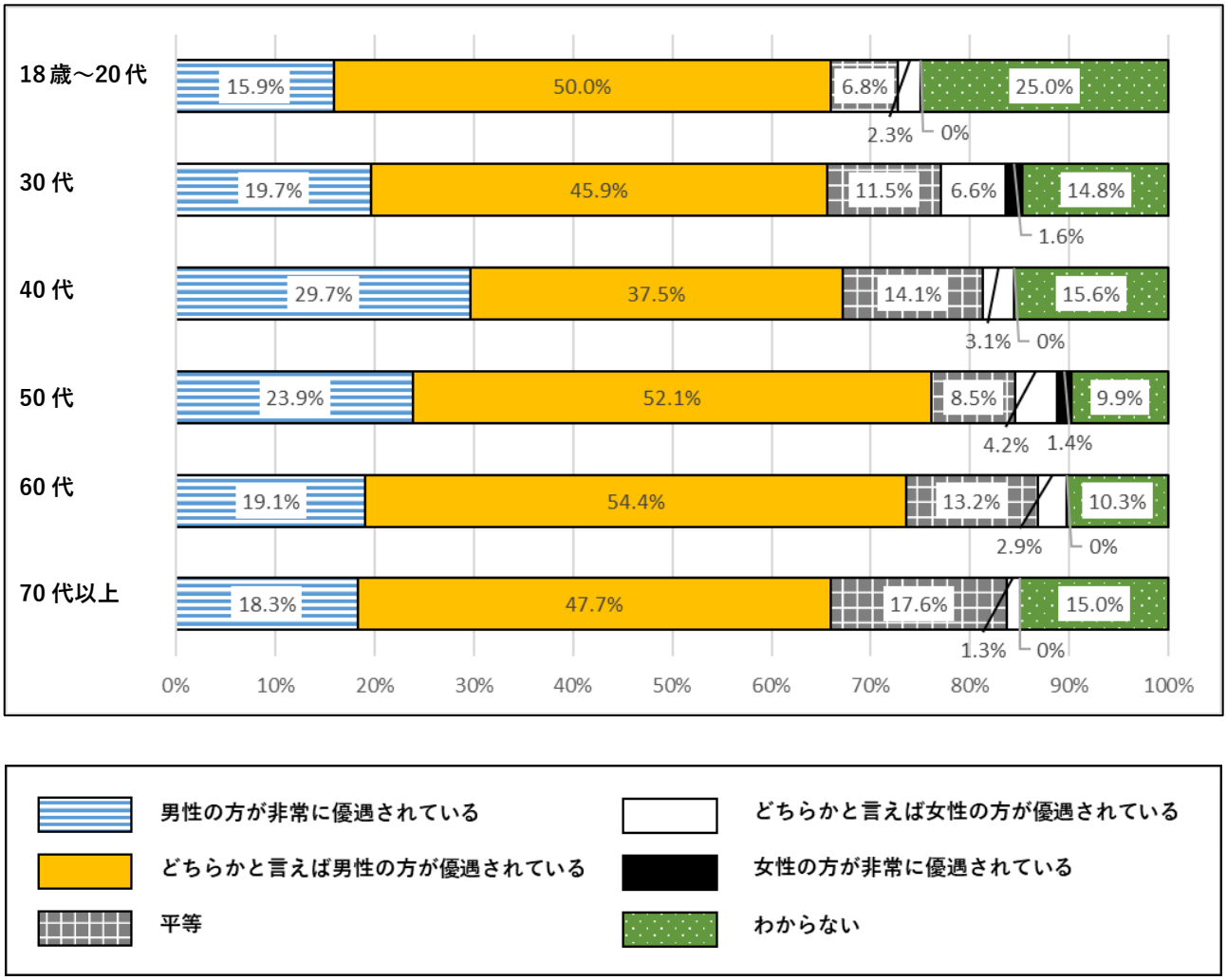
(5)法律や制度の上で

「70 代以上」では「平等」と答えた者の割合（37.4%）が最も高く、それ以外の年代では「男性の方が優遇されている」と答えた者の割合が最も高くなっている。



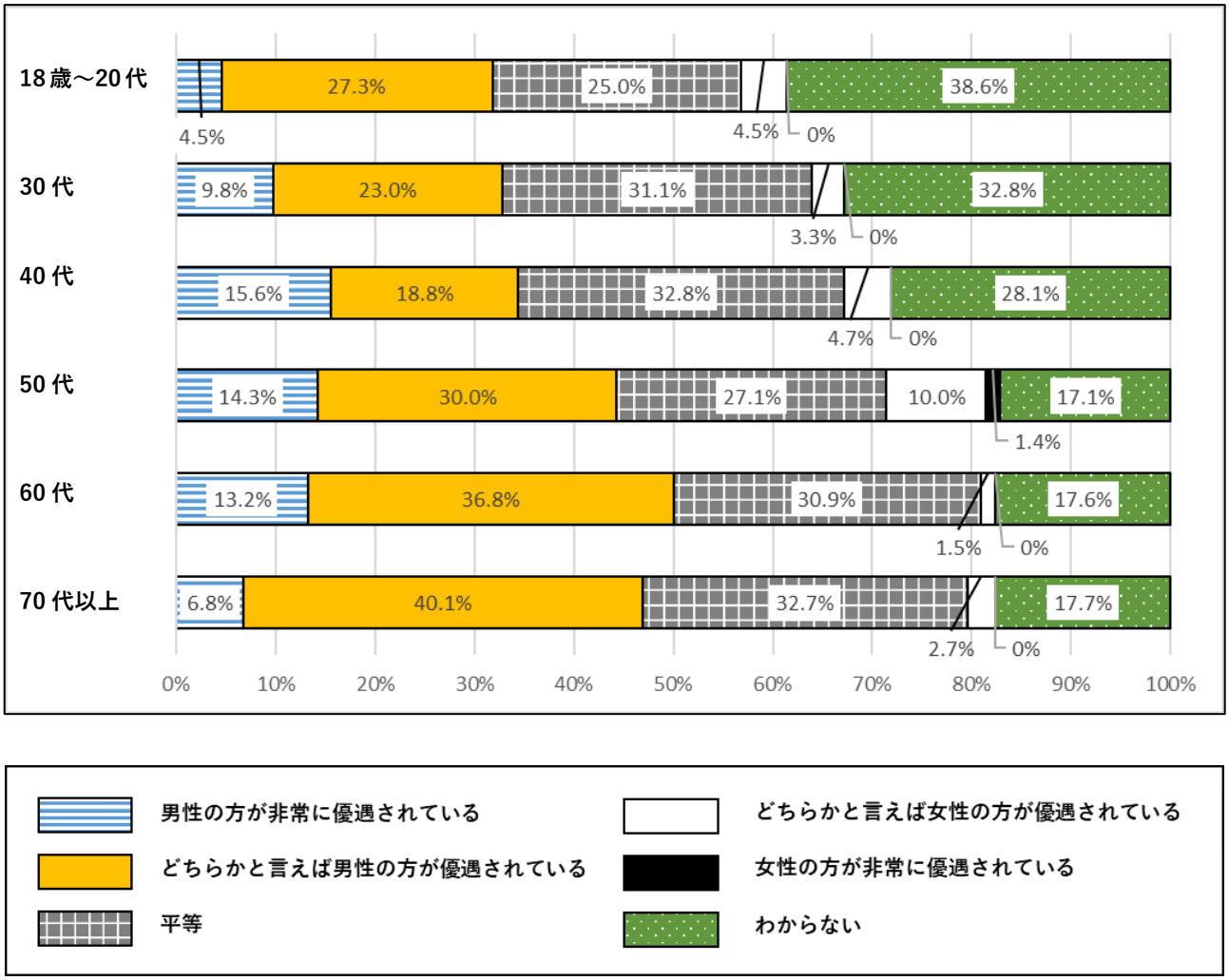
(6)社会通念・慣習・しきたりなどで

すべての年代において「男性の方が優遇されている」と答えた者の割合が最も高くなっている。



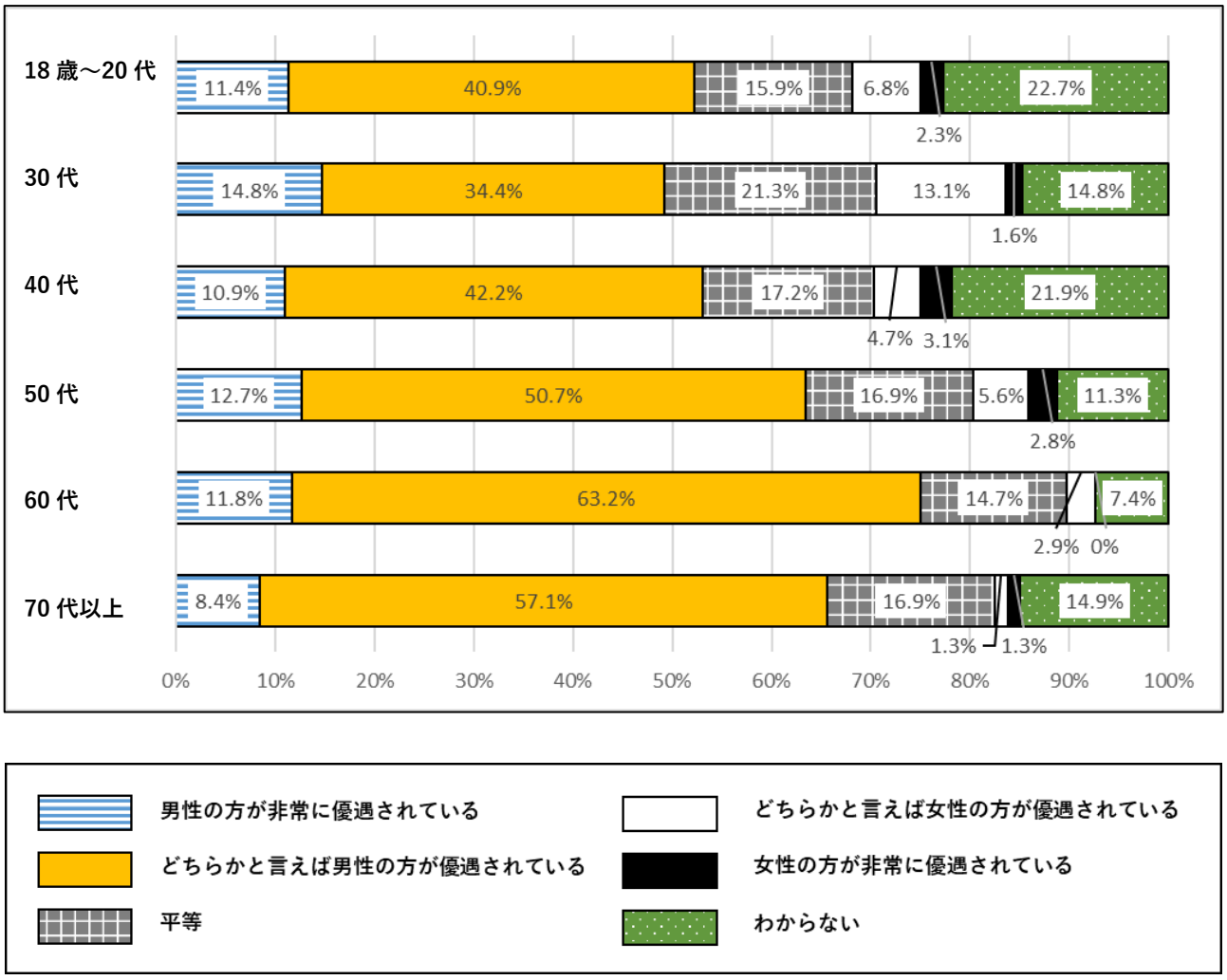
(7)自治会や NPO など地域活動の場で

「30 代」以上において「男性の方が優遇されている」と答えた者の割合が高くなっている。ただし、「30 代」では「男性の方が優遇されている」と答えた者と「わからない」と答えた者の割合は同じである。



(8)社会全体として

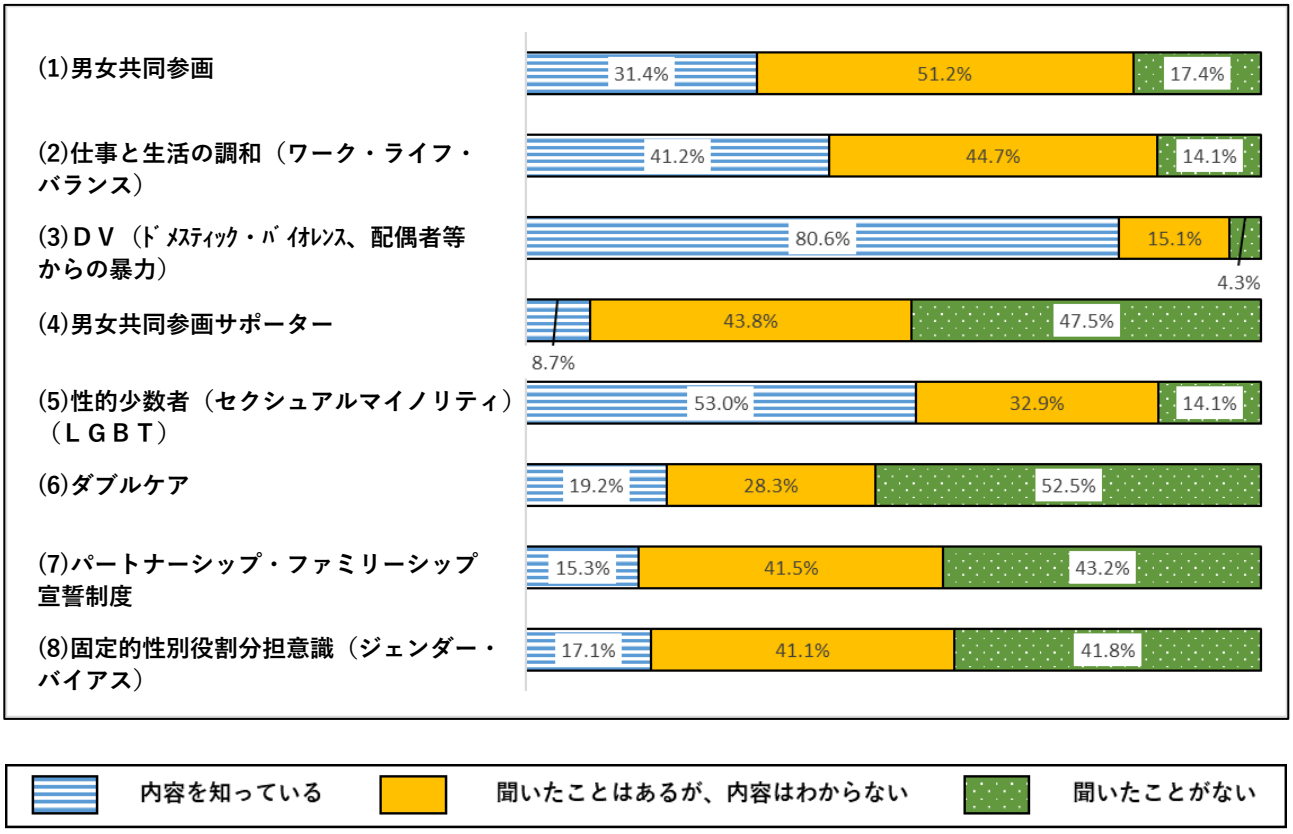
すべての年代において「男性の方が優遇されている」と答えた者の割合が最も高くなっている。



設問２　(1)から(8)の項目のうち、見たり聞いたりしたことがあるものはありますか。当てはまるものを１つ選んでください。

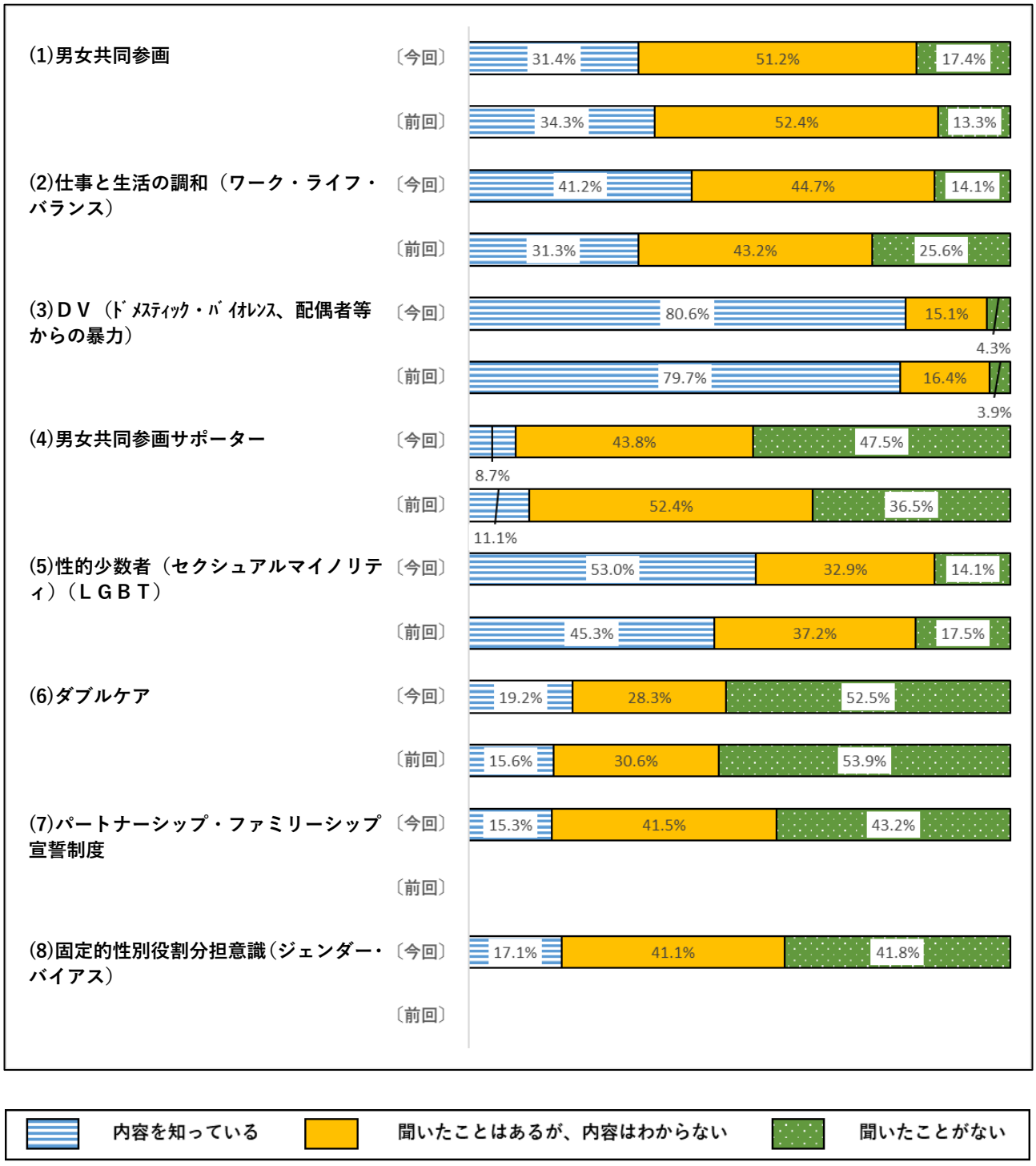
①今回調査

「内容を知っている」割合が高いものは、「ＤＶ」（80.6%）、「性的少数者」（53.0%）、「仕事と生活の調和」（41.2%）であった。
一方「ダブルケア」は 52.5%が「聞いたことがない」と回答している。また、今回調査から追加した「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」について「内容を知っている」と答えたのは 15.3%、「固定的性別役割分担意識」については 17.1%だった。



②前回調査（n=993）との比較

前回調査に比べ、「内容を知っている」割合が「仕事と生活の調和」で 9.9 ポイント、「性的少数者」で 7.7 ポイント、「ダブルケア」で 3.6 ポイントそれぞれ増加している。



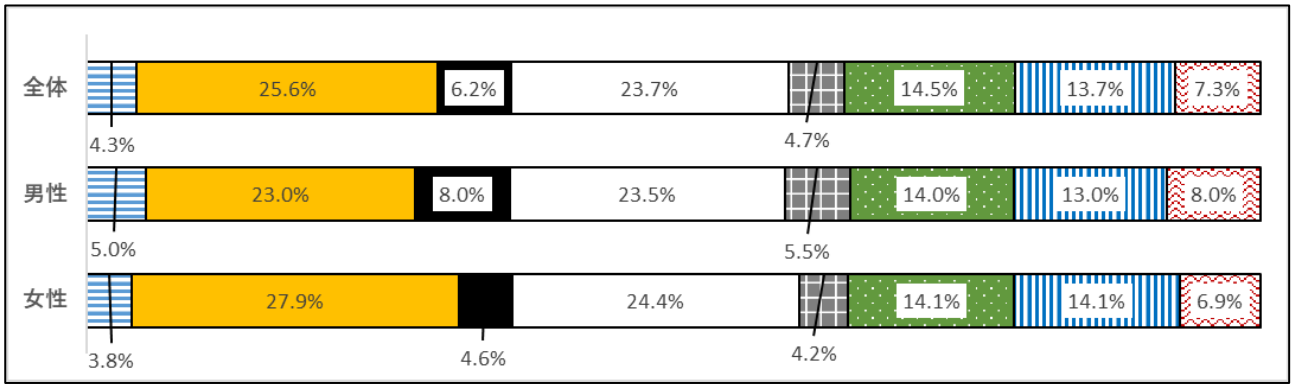
＜Ⅱ．仕事と家庭・社会活動の優先度について＞

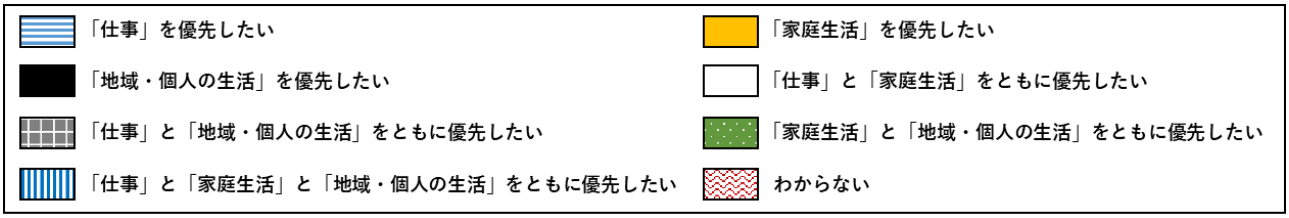
設問３　生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の優先度についてお伺いします。最も近いものを１つ選んでください。

（１）希望優先度

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について希望に最も近いものを聞いたところ、全体では「「家庭生活」を優先したい」（25.6%）が最も多く、次いで「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」（23.7%）、「「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」（14.5%）の順となっている。

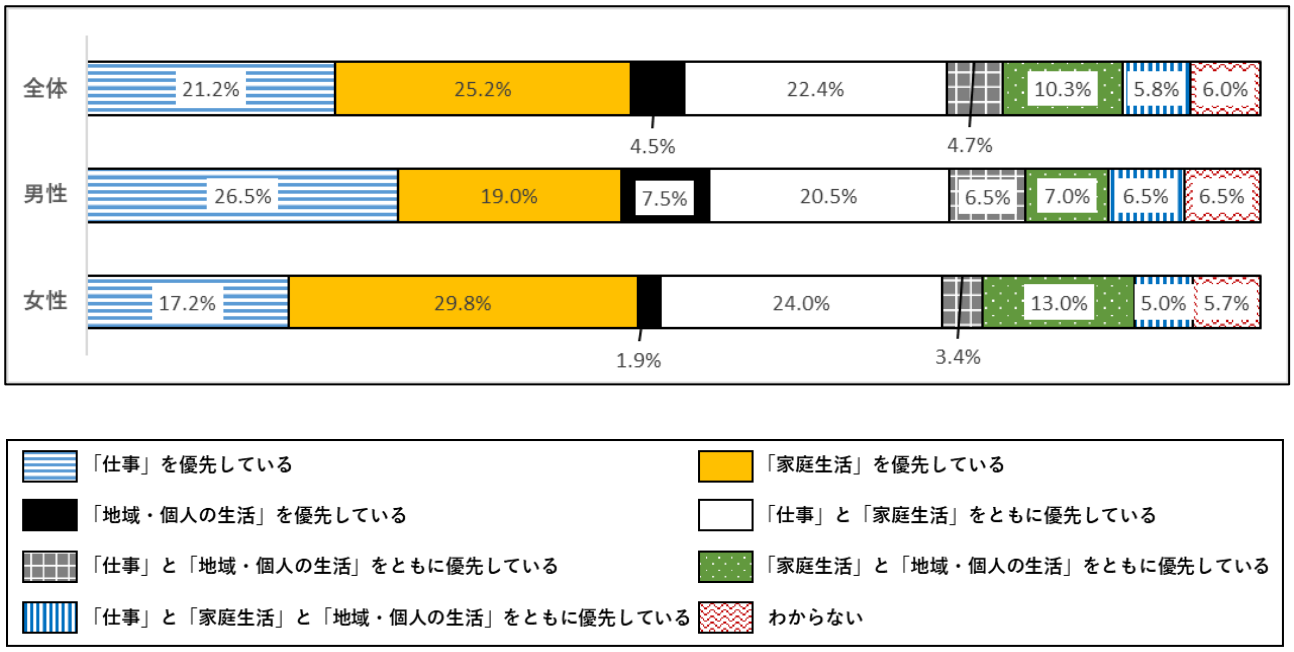
男女別でみると、男性は「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」（23.5%）が最も多く、次いで「「家庭生活」を優先したい」が 23.0%だった。女性は「「家庭生活」を優先したい」（27.9%）が最も多く、次いで「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が 24.4%だった。





(2)現状優先度

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について現状に最も近いものを聞いたところ、全体では「「家庭生活」を優先している」(25.2%)が最も多く、次いで「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」(22.4%)、「「仕事」を優先している」(21.2%)の順になっている。
男女別でみると、男性は「「仕事」を優先している」(26.5%)が最も多く、次いで「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が20.5%だった。女性は「「家庭生活」を優先している」(29.8%)が最も多く、次いで「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が24.0%だった。

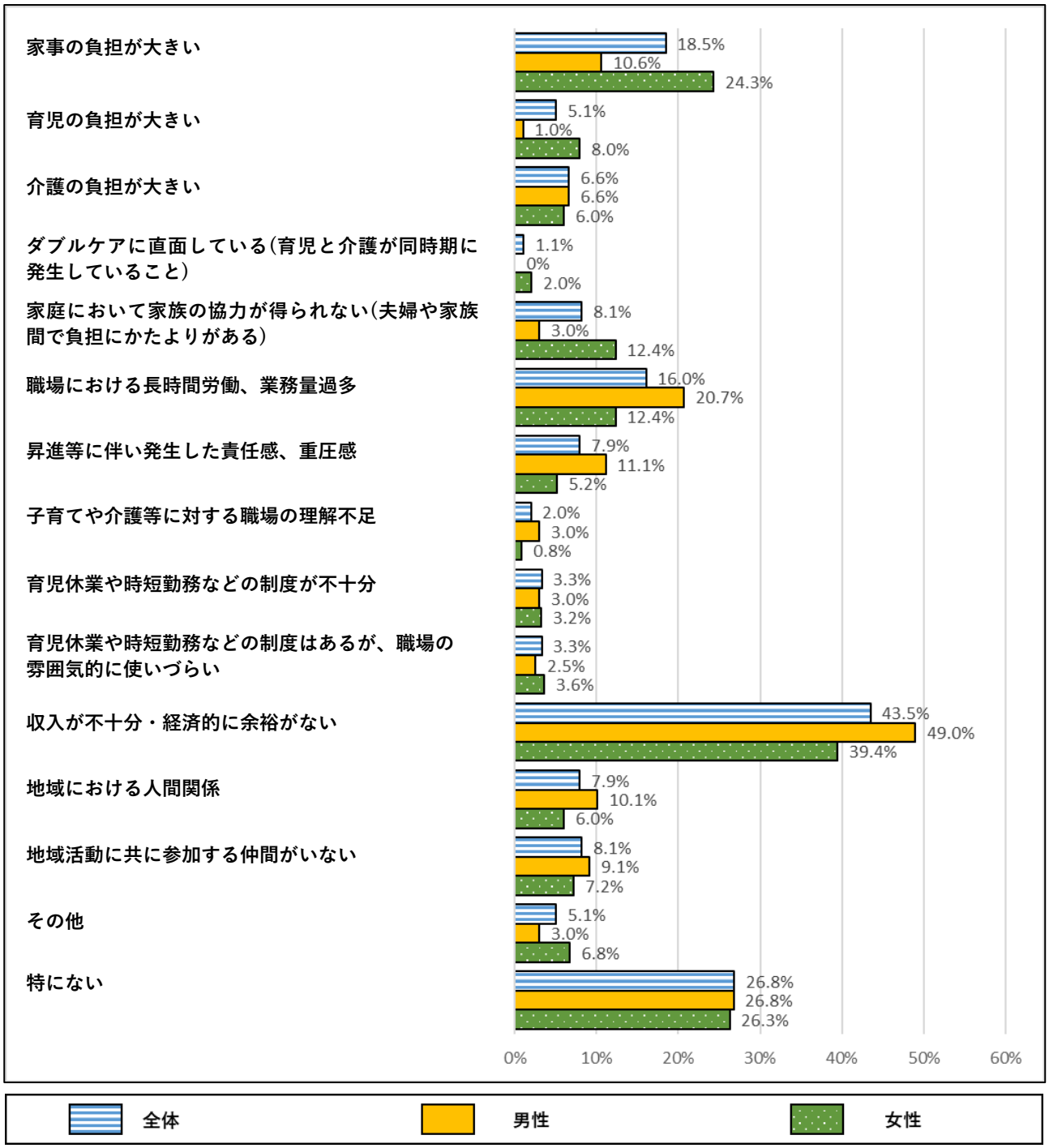


設問４　あなたが設問３の(1)の希望を実現するうえで、支障となっているものはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

①全体・男女別

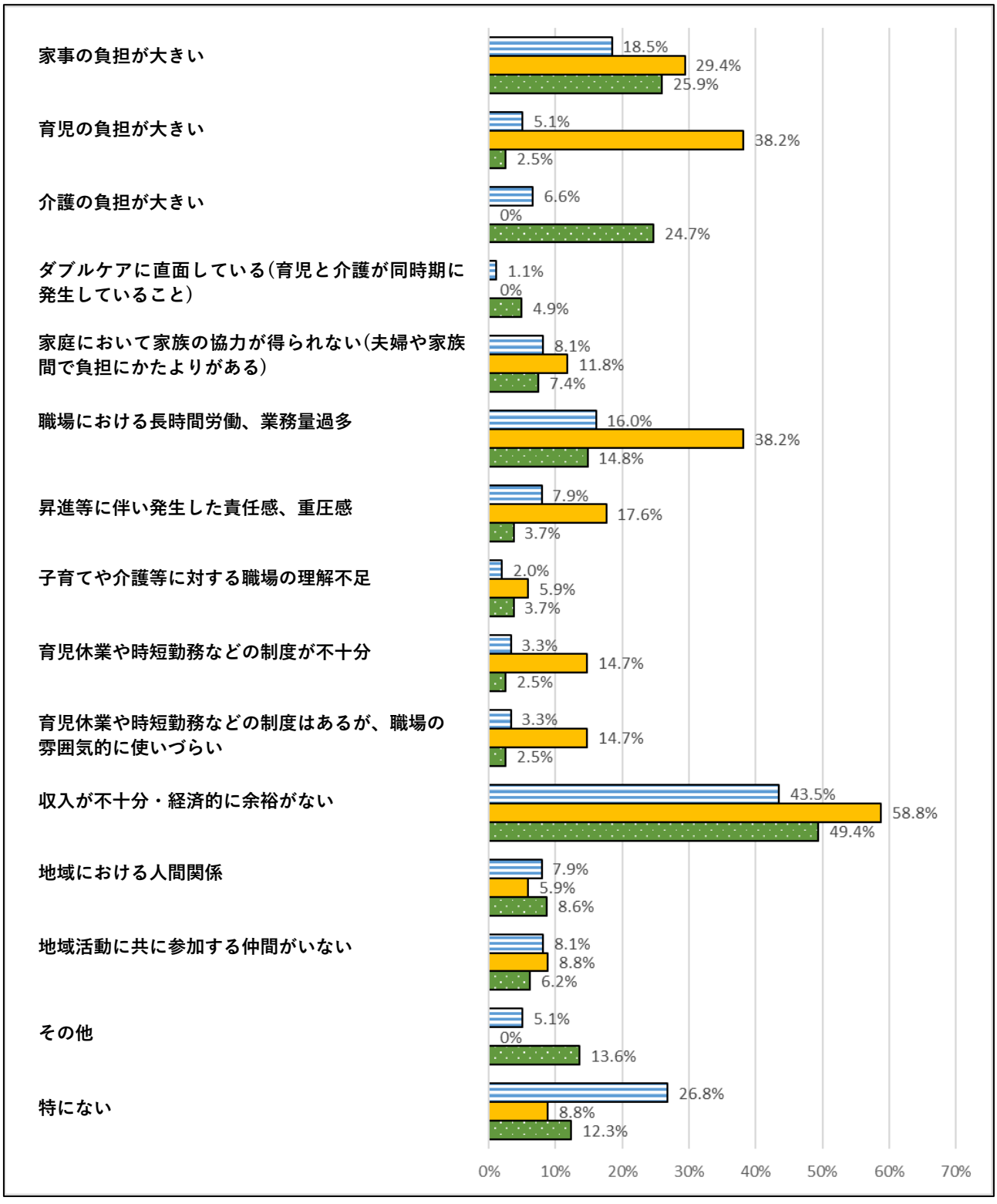
設問３の希望を実現するうえで支障となっているものを聞いたところ、全体では「収入が不十分・経済的に余裕がない」と回答した者（43.5%）が最も多く、次いで「特にない」（26.8%）、「家事の負担が大きい」（18.5%）の順となった。

男女別にみると、男性では「収入が不十分・経済的に余裕がない」と回答した者（49.0%）が最も多く、次いで「特にない」（26.8%）、「職場における長時間労働、業務量過多」（20.7%）の順となった。女性も同様に「収入が不十分・経済的に余裕がない」と回答した者（39.4%）が最も多く、次いで「特にない」（26.3%）、「家事の負担が大きい」（24.3%）の順となった。



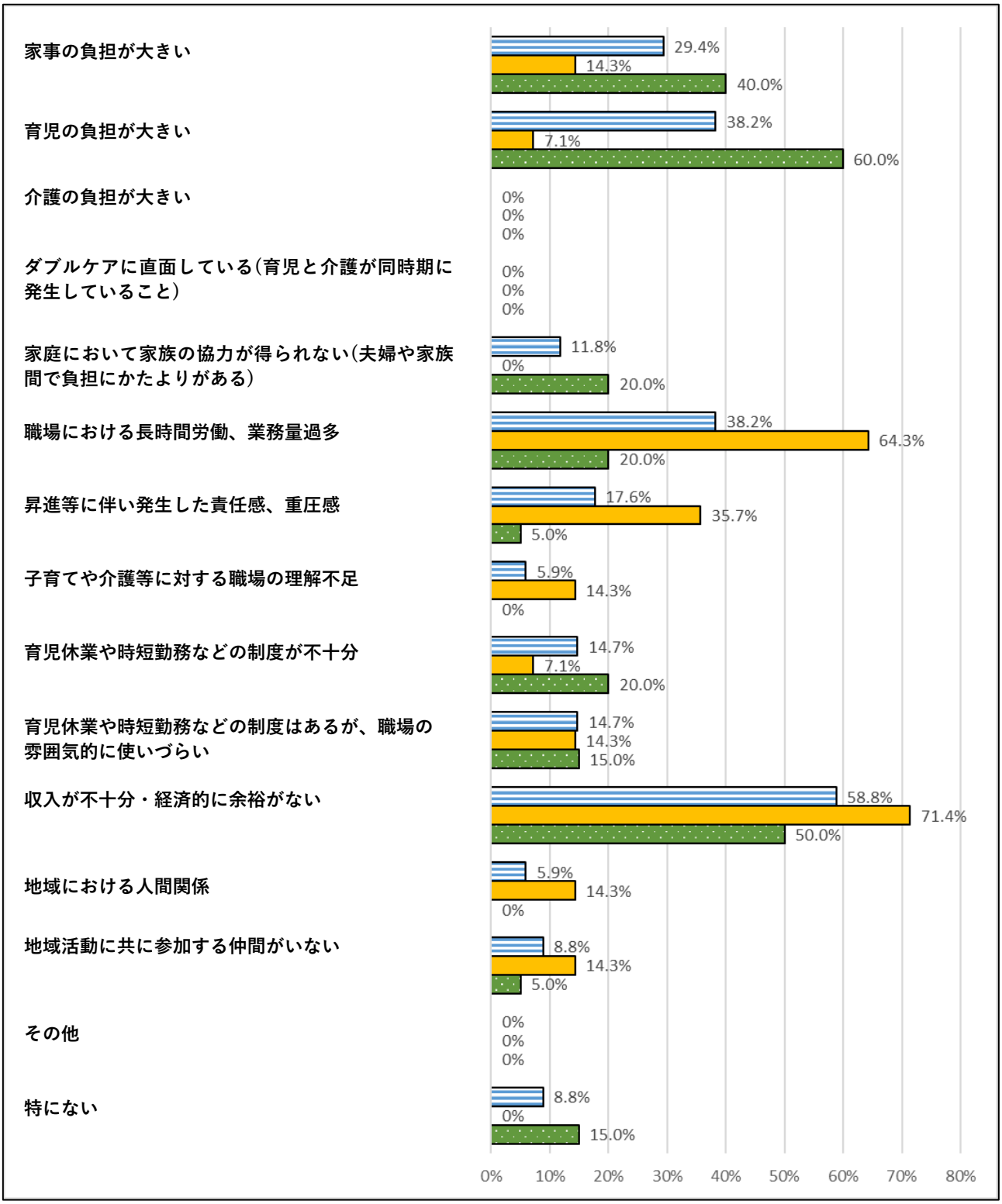
②全体・属性別

「収入が不十分・経済的に余裕がない」が最も多かったが、「未就学児と同居している」者の回答では、次いで、「育児の負担が大きい」、「職場における長時間労働、業務量過多」が多かった。また、「要介護者と同居している者」の回答では、「家事の負担が大きい」、「介護の負担が大きい」が多かった。



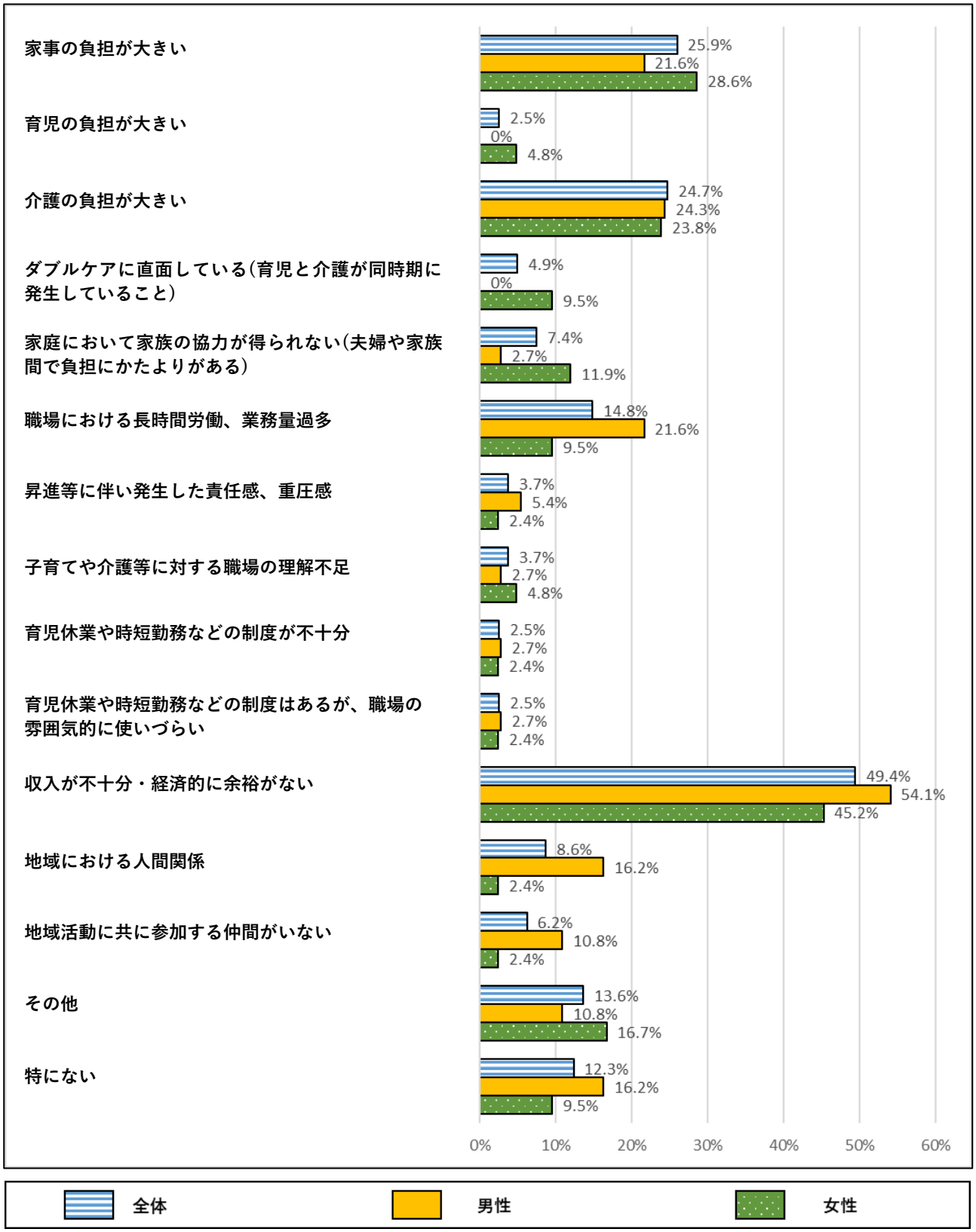
③未就学児と同居している全体・男女別

「未就学児と同居している」者の回答を男女別にみると、男性は「収入が不十分・経済的に余裕がない」（71.4%）が最も多く、次いで「職場における長時間労働、業務量過多」（64.3%）の順だった。女性は、「育児の負担が大きい」（60.0%）が最も多く、次いで「収入が不十分・経済的に余裕がない」（50.0%）の順だった。



④要介護者と同居している全体・男女別

「要介護者と同居している」者の回答を男女別にみると、男性は「収入が不十分・経済的に余裕がない」（54.1%）が最も多く、次いで「介護の負担が大きい」（24.3%）の順だった。女性も「収入が不十分・経済的に余裕がない」（45.2%）が最も多く、次いで「家事の負担が大きい」（28.6%）の順だった。

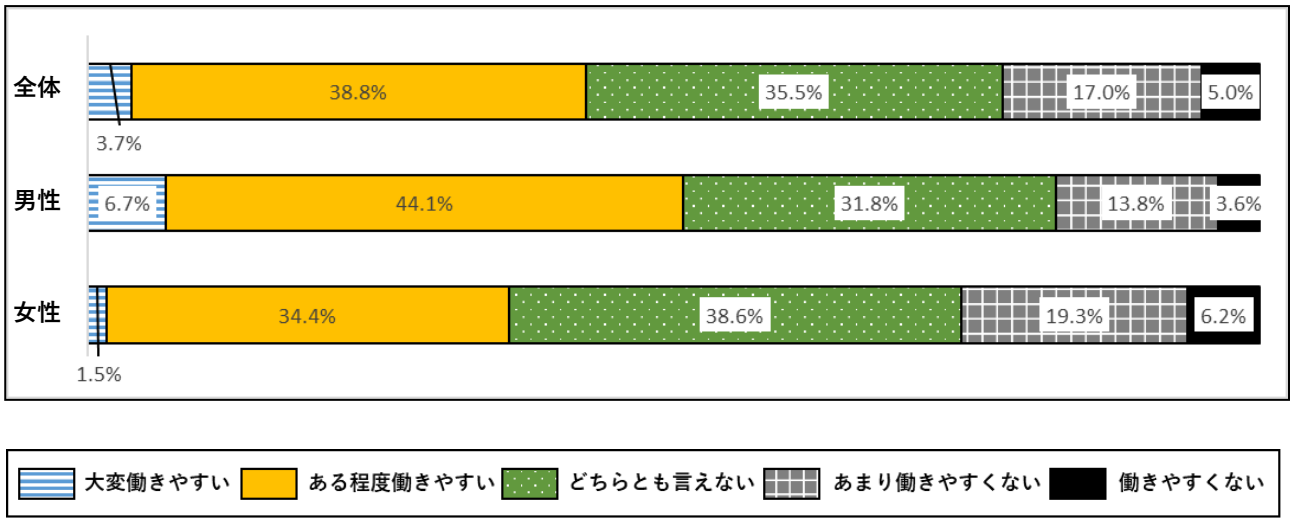


＜Ⅲ. 女性の就労について＞

設問５　現在の社会は、女性が働きやすい状況にあると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものを１つ選んでください。

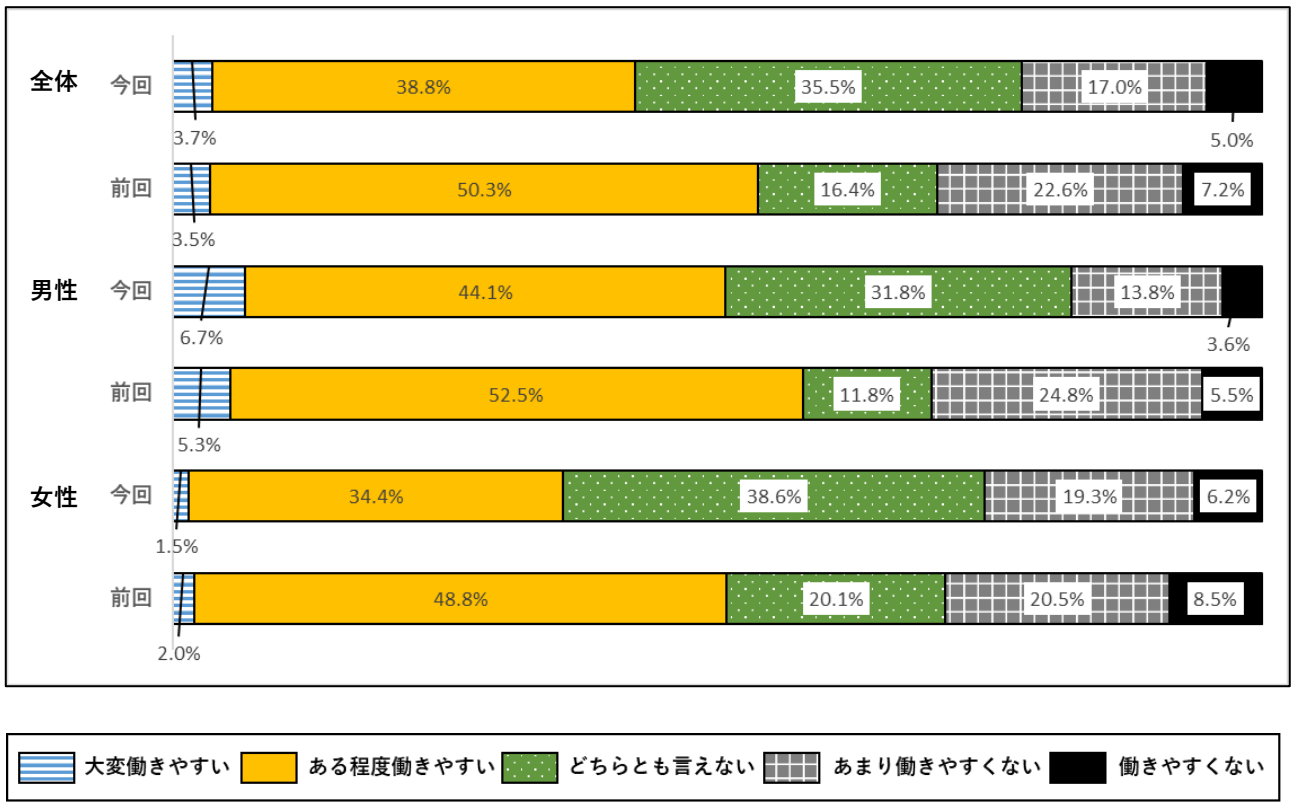
①今回調査

現在の社会は、女性が働きやすい状況にあると思うか聞いたところ、全体では「働きやすい状況にあると思う」（「大変働きやすい」または「ある程度働きやすい」）と答えた者の割合は 42.5％であり、「働きやすい状況にあるとは思わない」（「あまり働きやすくない」または「働きやすくない」）と答えた者の割合は 22.0％だった。
男女別でみると、「働きやすい状況にあると思う」と答えた者の割合は、男性より女性のほうが低かった（男性 50.8％、女性 35.9％）。



②前回調査（n=993）との比較

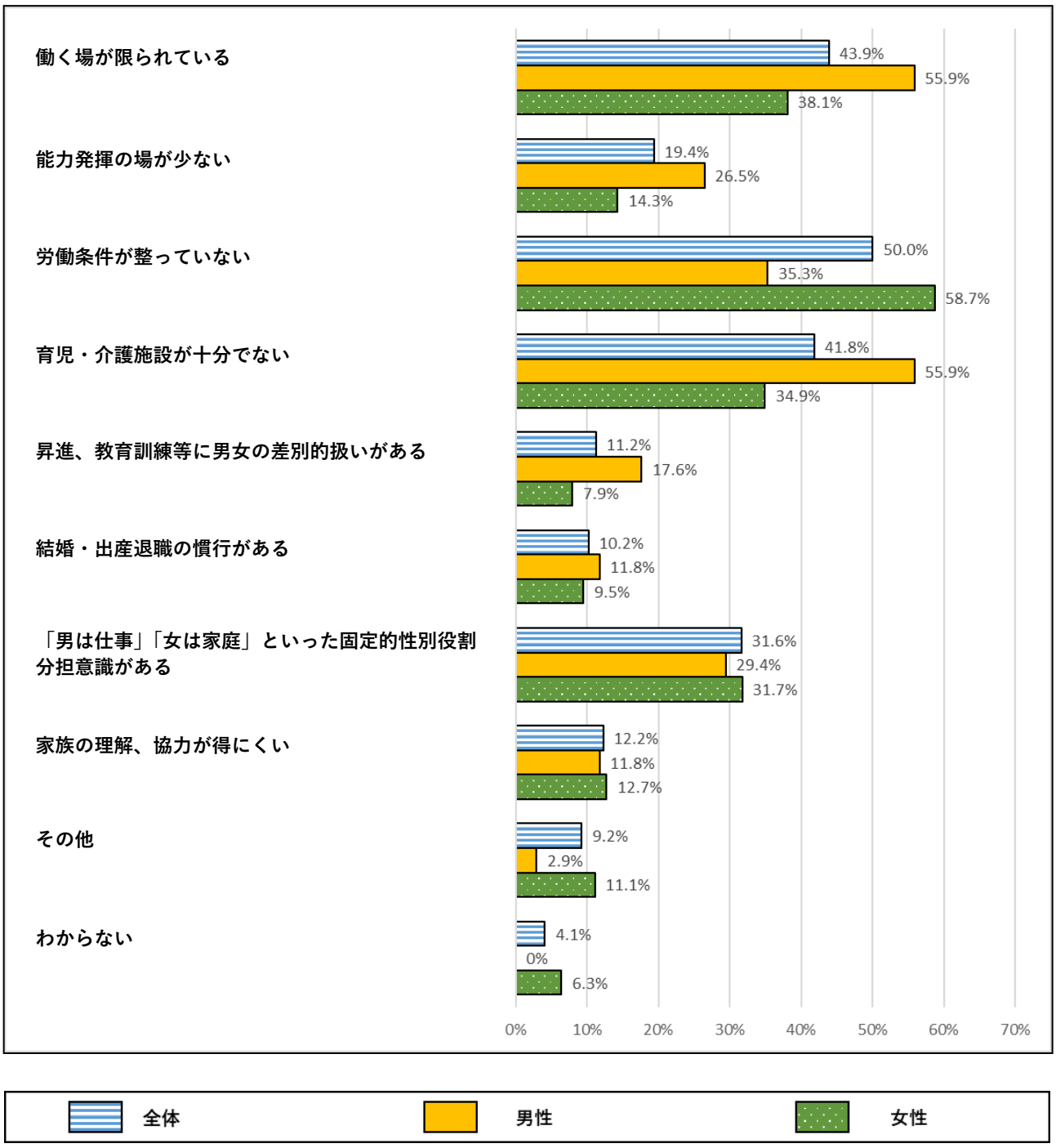
前回調査と比較したところ、全体では「働きやすい状況にあると思う」「働きやすい状況にあるとは思わない」と答えた割合が共に減少しており、「どちらとも言えない」と答えた者の割合が増加している。男女別にみても同様となっている。



設問６　［設問５で『あまり働きやすくない』または『働きやすくない』と答えた方にお伺いします。］

それは、どのような理由からでしょうか。あてはまるものを３つまで選んでください。

設問５で「働きやすい状況にあるとは思わない」と答えた者にその理由を聞いたところ、全体では「労働条件が整っていない」（50.0%）と答えた者の割合が最も高く、次いで「働く場が限られている」（43.9%）、「育児・介護施設が十分でない」（41.8%）の順となっている。また、女性の回答も同様の順となっている。

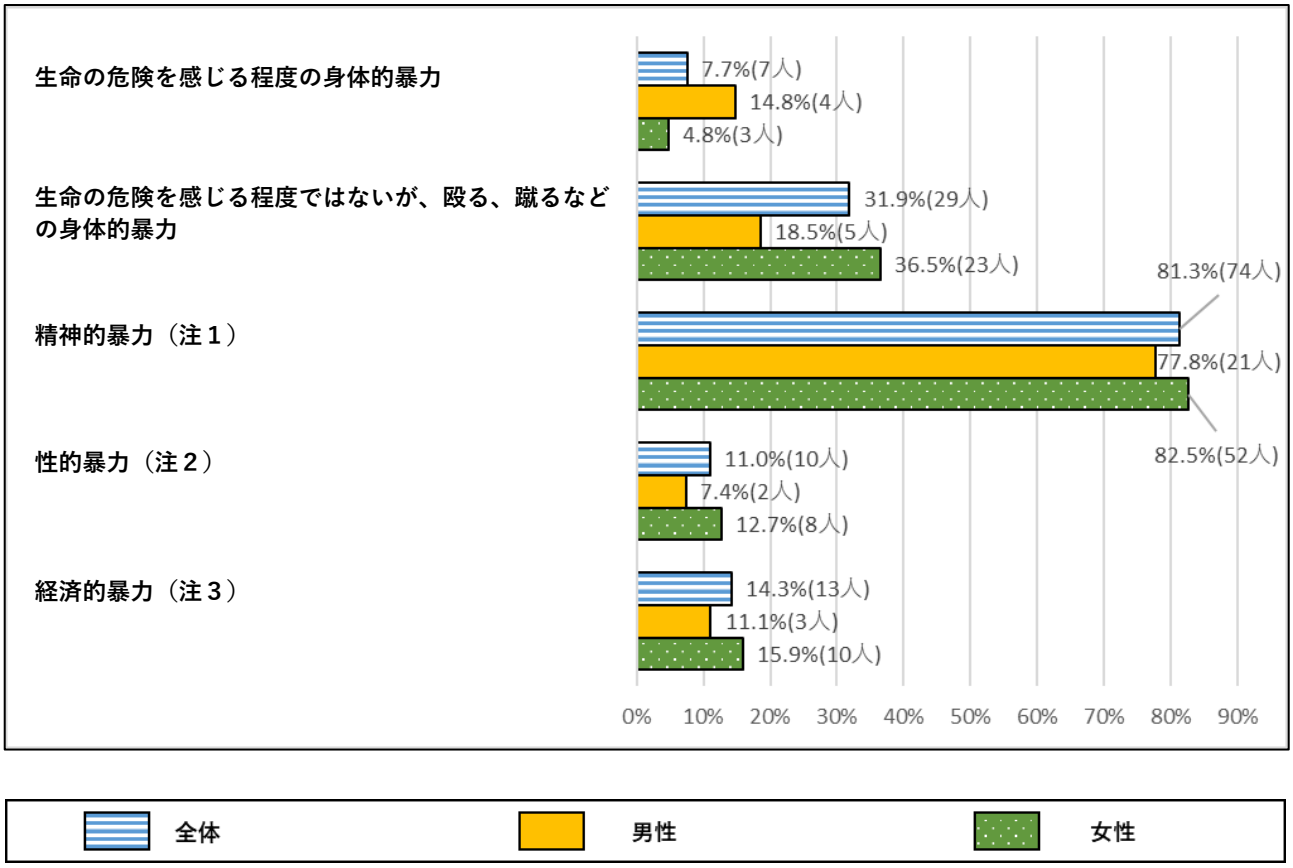


＜Ⅳ．ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）などについて＞

設問７　あなたは、過去に、次にあげるＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）を受けたことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

過去にＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）を受けたことがあるか聞いたところ、受けたことがあると回答したＤＶの中で最も多かったのは「精神的暴力」（15.7%）で、次いで「生命の危険を感じる程度ではないが、殴る、蹴るなどの身体的暴力」（6.1%）となっており、男女別にみても同様の順となっている。

受けたことがある暴力の種類（複数回答／被害経験者ベース）

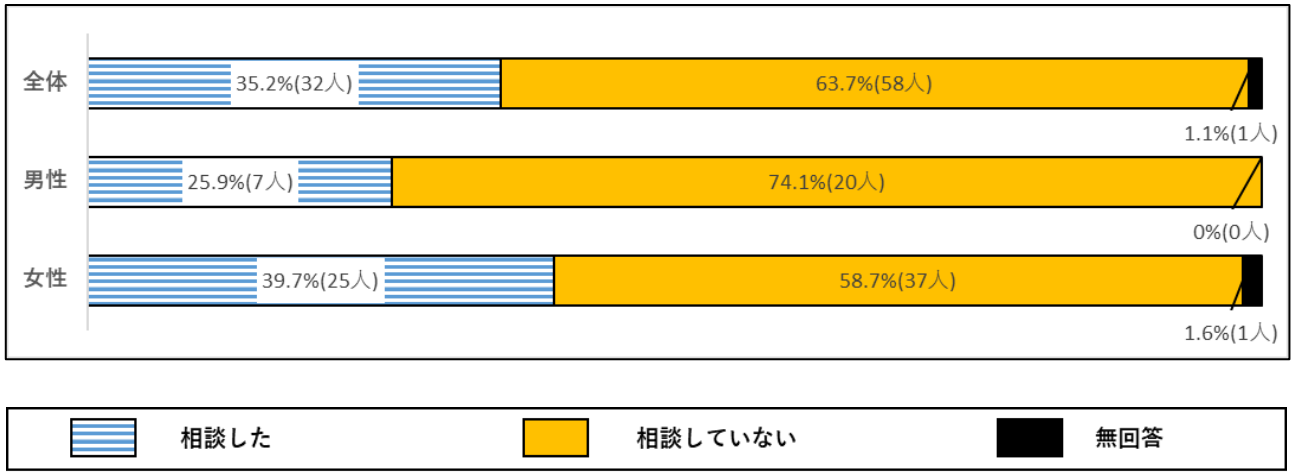


※暴力を受けたことがある者（全体 n=91、男性 n=27、女性 n=63）

注１：どなる、脅す、監視する、見下した態度をとるなど
注２：いやがるのに性的行為を強要する、見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せるなど
注３：生活費を渡さない、外で働くことを禁止するなど

設問８　［設問７でＤＶを「受けたことがある」と答えた方にお伺いします。］その時あなたは誰か（どこか）に相談しましたか。

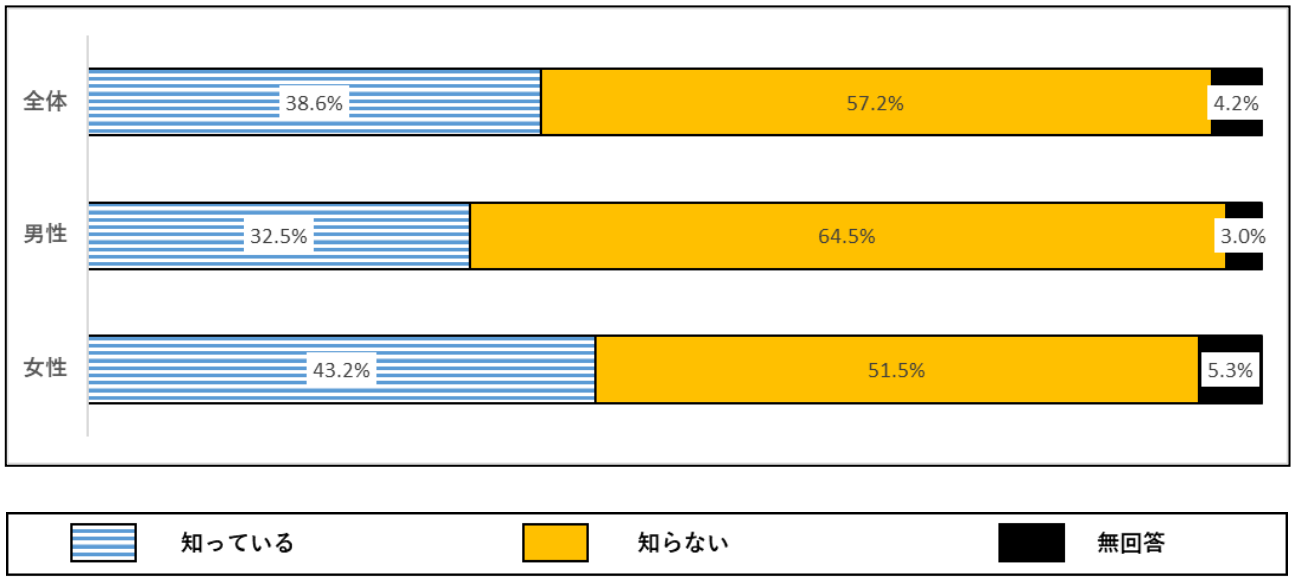
過去にＤＶを受けたことがあると答えた者に、誰か（どこか）に相談したか聞いたところ、「相談した」と答えた者の割合は 35.2%、「相談していない」と答えた者の割合は 63.7%だった。男女別にみると「相談した」と答えた男性の割合は 25.9%、女性は 39.7%だった。



※暴力を受けたことがある者（全体 n=91、男性 n=27、女性 n=63）

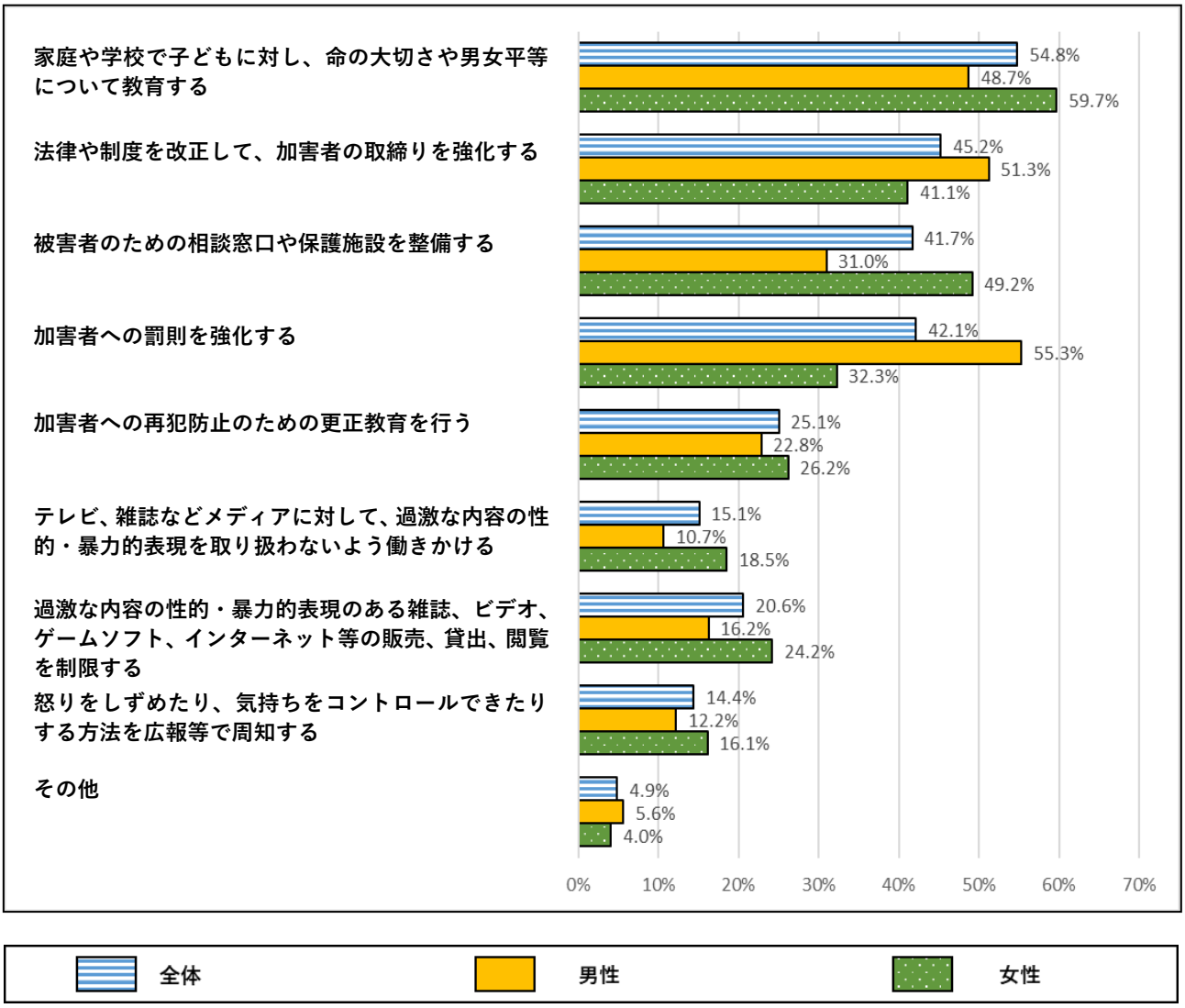
設問９　あなたはＤＶについて相談できる窓口（インターネットや電話相談を含む）を知っていますか。

ＤＶについて相談できる窓口を知っているか聞いたところ、「知っている」と答えた者の割合は 38.6%、「知らない」と答えた者の割合は 57.2%だった。男女別にみると「知っている」と答えた男性の割合は 32.5%、女性は 43.2%だった。



設問 10　性犯罪、セクシュアル・ハラスメントやＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）などの暴力をなくすには、どのようなことが必要だと考えますか。あてはまるものを３つまで選んでください。

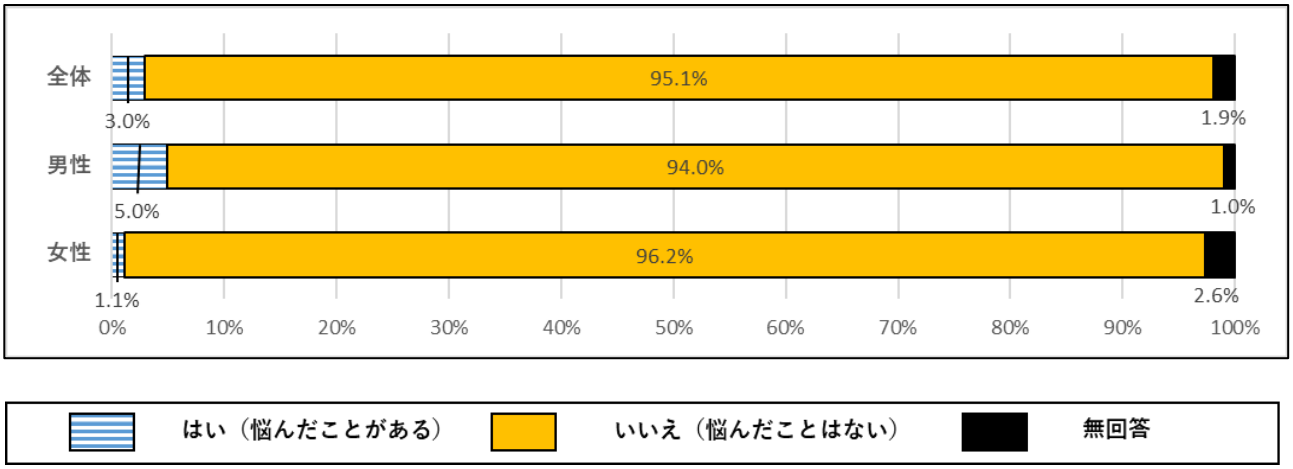
性犯罪、セクシュアル・ハラスメントやＤＶなどの暴力をなくすためにはどのようなことが必要か聞いたところ、全体では「家庭や学校で子どもに対し、命の大切さや男女平等について教育する」（54.8%）が最も多く、次いで「法律や制度を改正して、加害者の取締りを強化する」（45.2%）、「加害者への罰則を強化する」（42.1%）の順だった。男女別にみると、男性では、「加害者への罰則を強化する」（55.3%）が最も多く、次いで「法律や制度を改正して、加害者の取締りを強化する」（51.3%）、「家庭や学校で子どもに対し、命の大切さや男女平等について教育する」（48.7%）の順となっている。女性では、「家庭や学校で子どもに対し、命の大切さや男女平等について教育する」（59.7%）が最も多く、次いで「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」（49.2%）、「法律や制度を改正して、加害者の取締りを強化する」（41.1%）の順となっている。



＜V．性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT）について＞

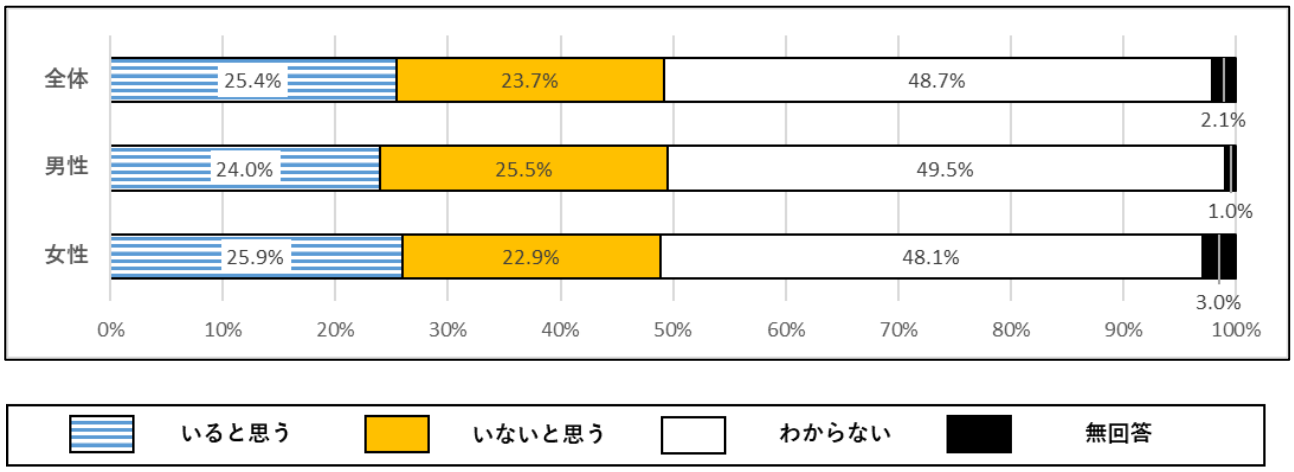
設問 11　あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的指向（同性愛など）に悩んだことがありますか。

今までに自分の身体の性、心の性または性的指向に悩んだことがあるか聞いたところ、「悩んだことがある」と回答した者の割合は 3.0%、「悩んだことはない」と回答した者の割合は 95.1%だった。



設問 12　あなたの周りに性的少数者の方はいると思いますか。

周りに性的少数者の方がいると思うか聞いたところ、「いると思う」と答えた者の割合は 25.4%、「いないと思う」と答えた者の割合は 23.7%、「わからない」と答えた者の割合は 48.7%だった。

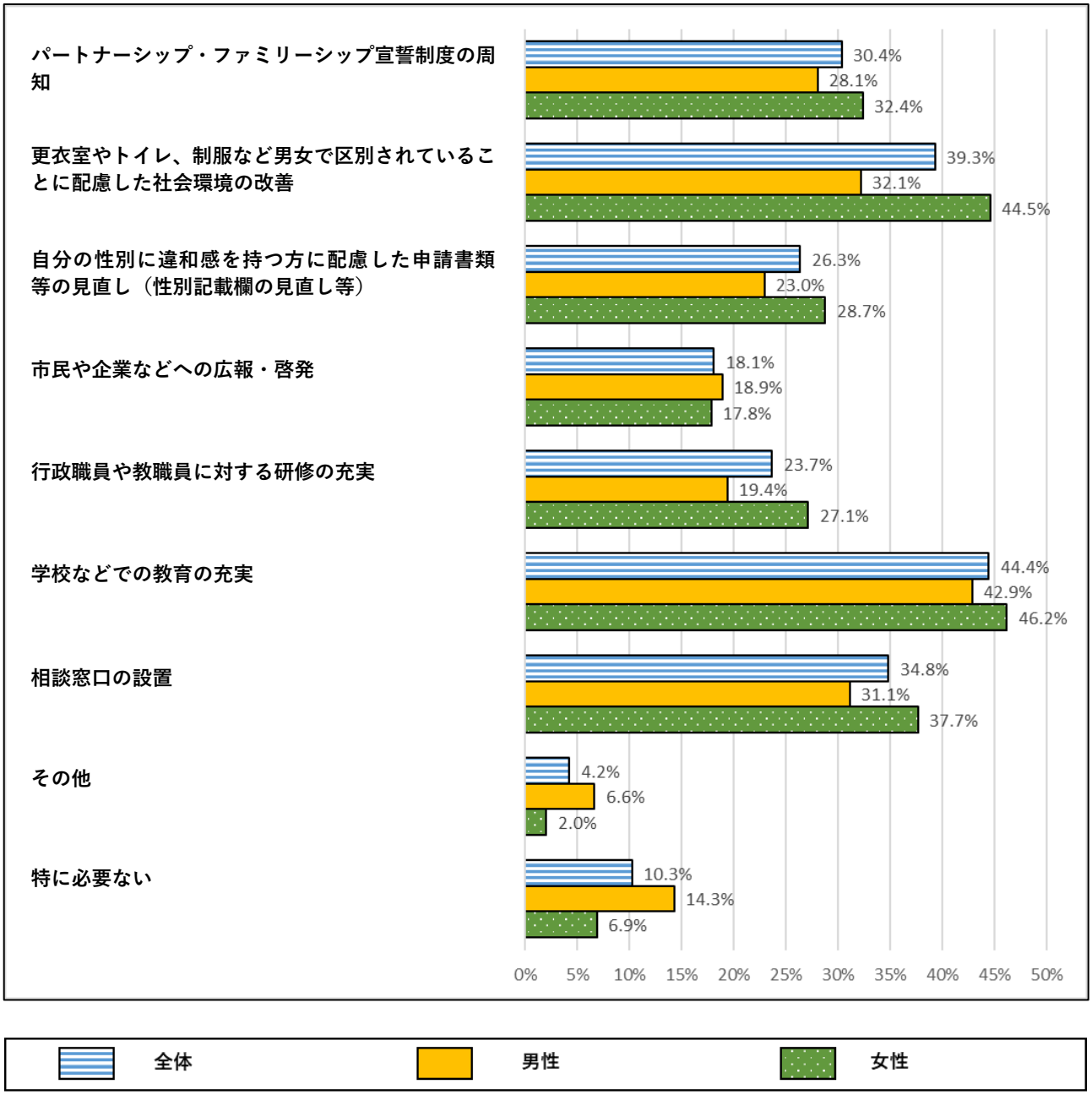


※性的少数者とは、セクシュアルマイノリティと同義であり、性的指向や性自認等に関してのありようが性的多数派とは異なるとされる人々のことです。

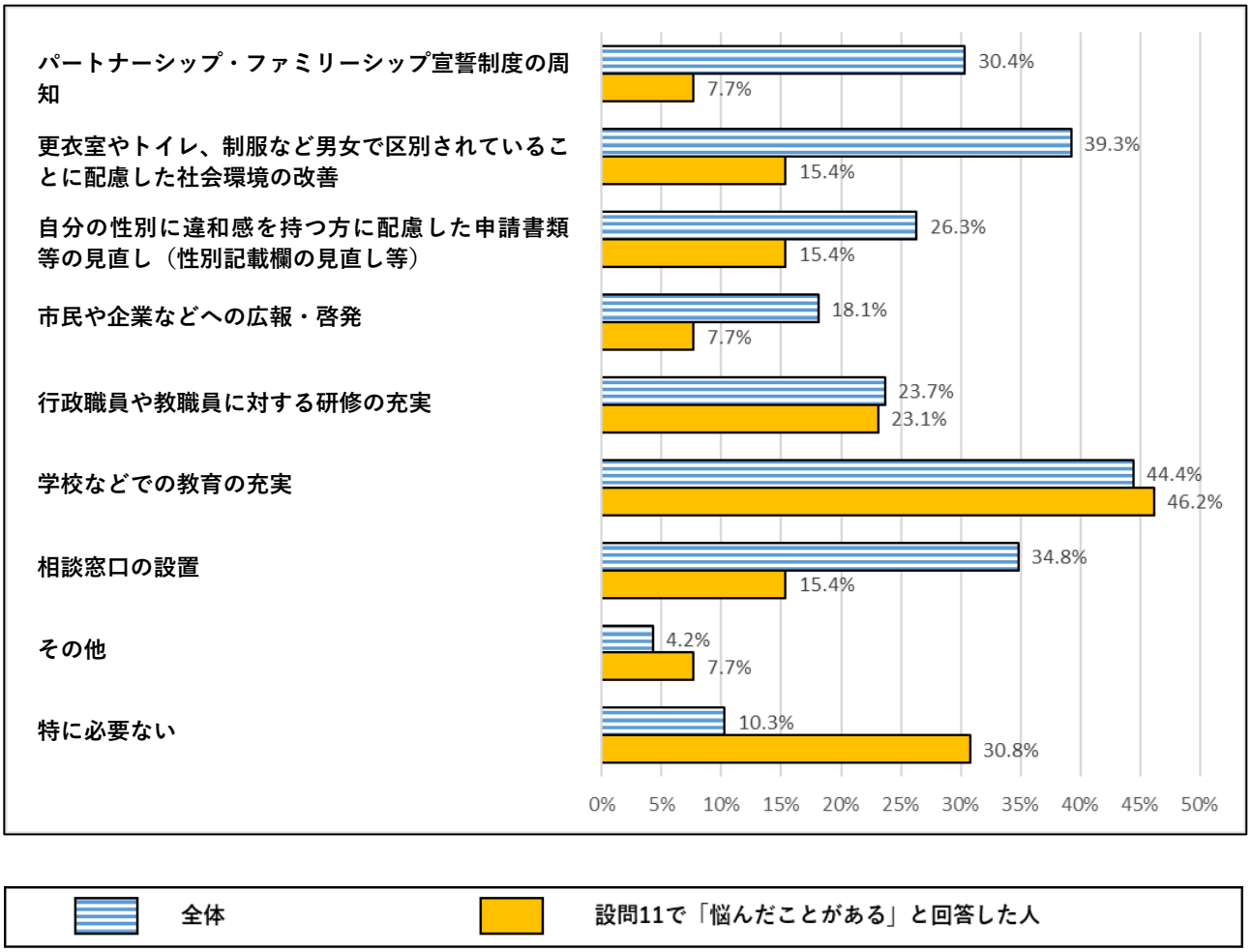
設問 13　あなたは性的少数者の方の生きづらさを解消するために何が必要だと思いますか。当てはまるものを３つまで選んでください。

性的少数者の方の生きづらさを解消するために何が必要か聞いたところ、全体では、「学校などでの教育の充実」（44.4%）と答えた者が最も多く、次いで「更衣室やトイレ、制服など男女で区別されていることに配慮した社会環境の改善」（39.3%）、「相談窓口の設置」（34.8%）の順となっている。自分の性に悩んだことがある者の回答をみると、「学校などでの教育の充実」（46.2%）が最も多く、次いで「特に必要ない」（30.8%）、「行政職員や教職員に対する研修の充実」（23.1%）の順となっている。

① 男女別



② 全体と悩み経験者の比較

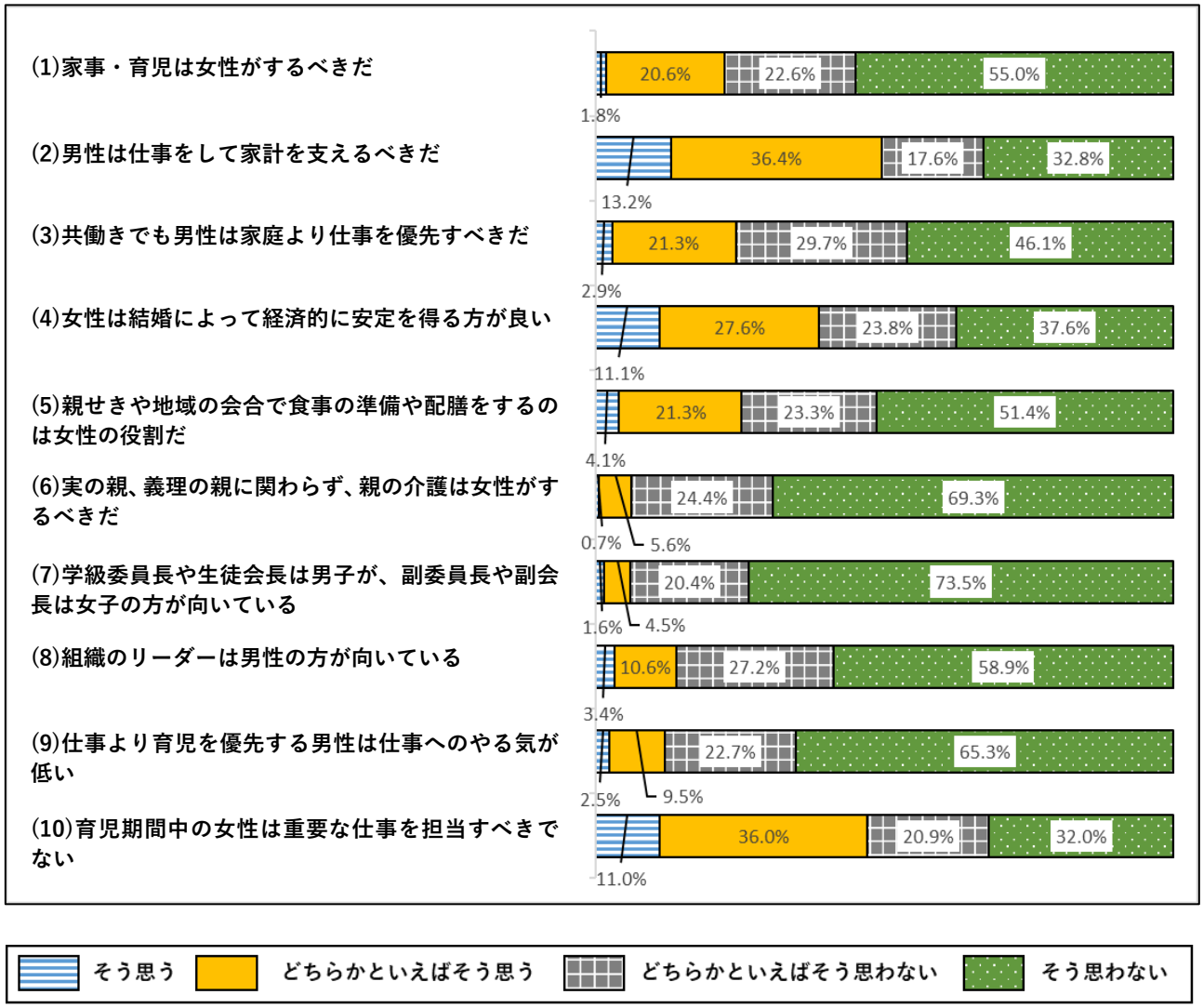


＜Ⅵ. 固定的性別役割分担意識（ジェンダー・バイアス）について＞

設問 14　次の(1)から(10)までについて、あなたの気持ちに最も近いものを１つ選んでください。

①全体

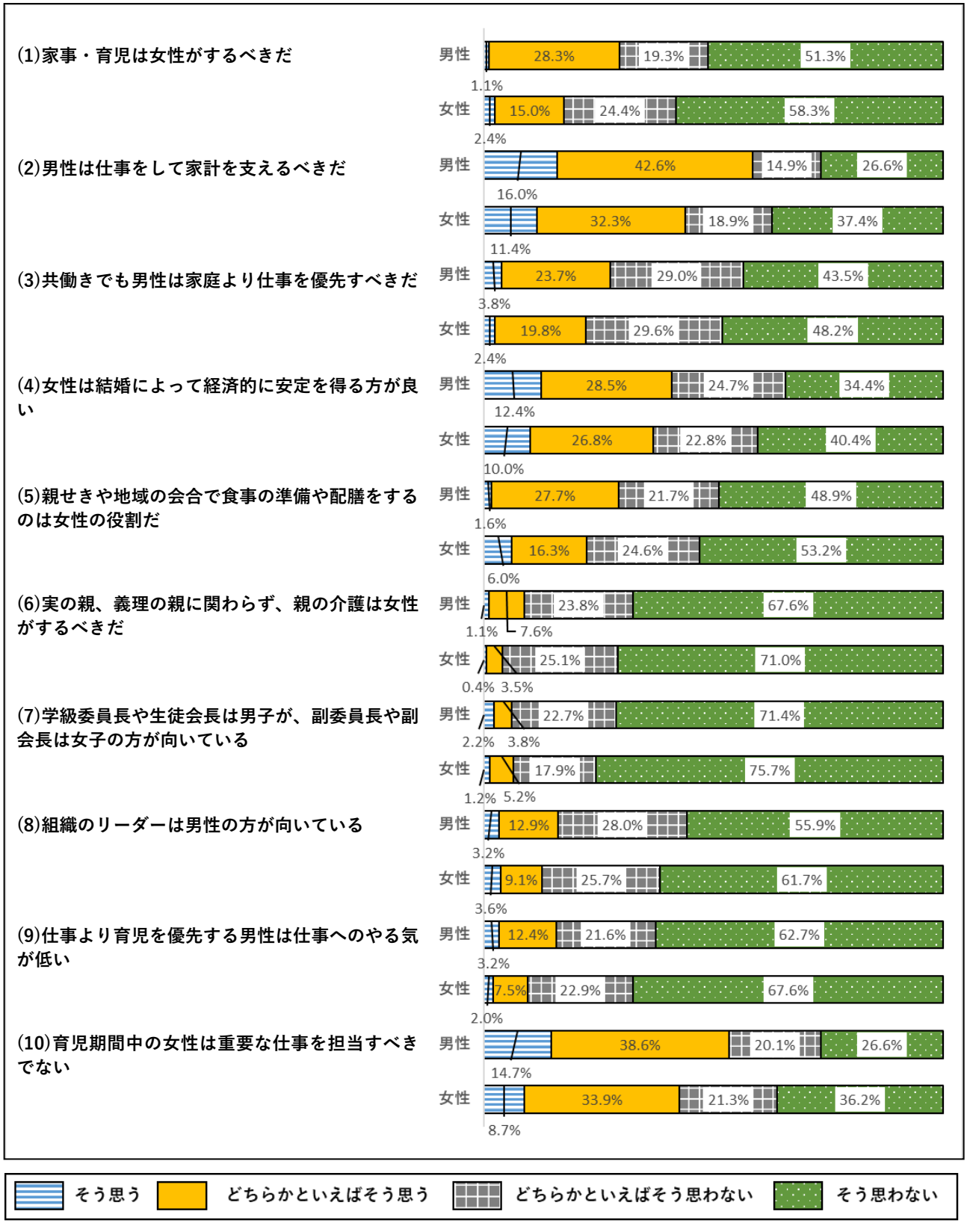
性別に基づく役割や思い込みについて聞いたところ、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合が最も高かったのは、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」で49.6%、次いで「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」（47.0%）、「女性は結婚によって経済的に安定を得る方が良い」（38.7%）の順となっている。



※固定的性別役割分担意識（ジェンダー・バイアス）とは、性別を理由に役割を固定してしまう考え方を指します。「男だからこうすべき」「女だからこうあるべき」という決めつけなどのことです。

②男女別

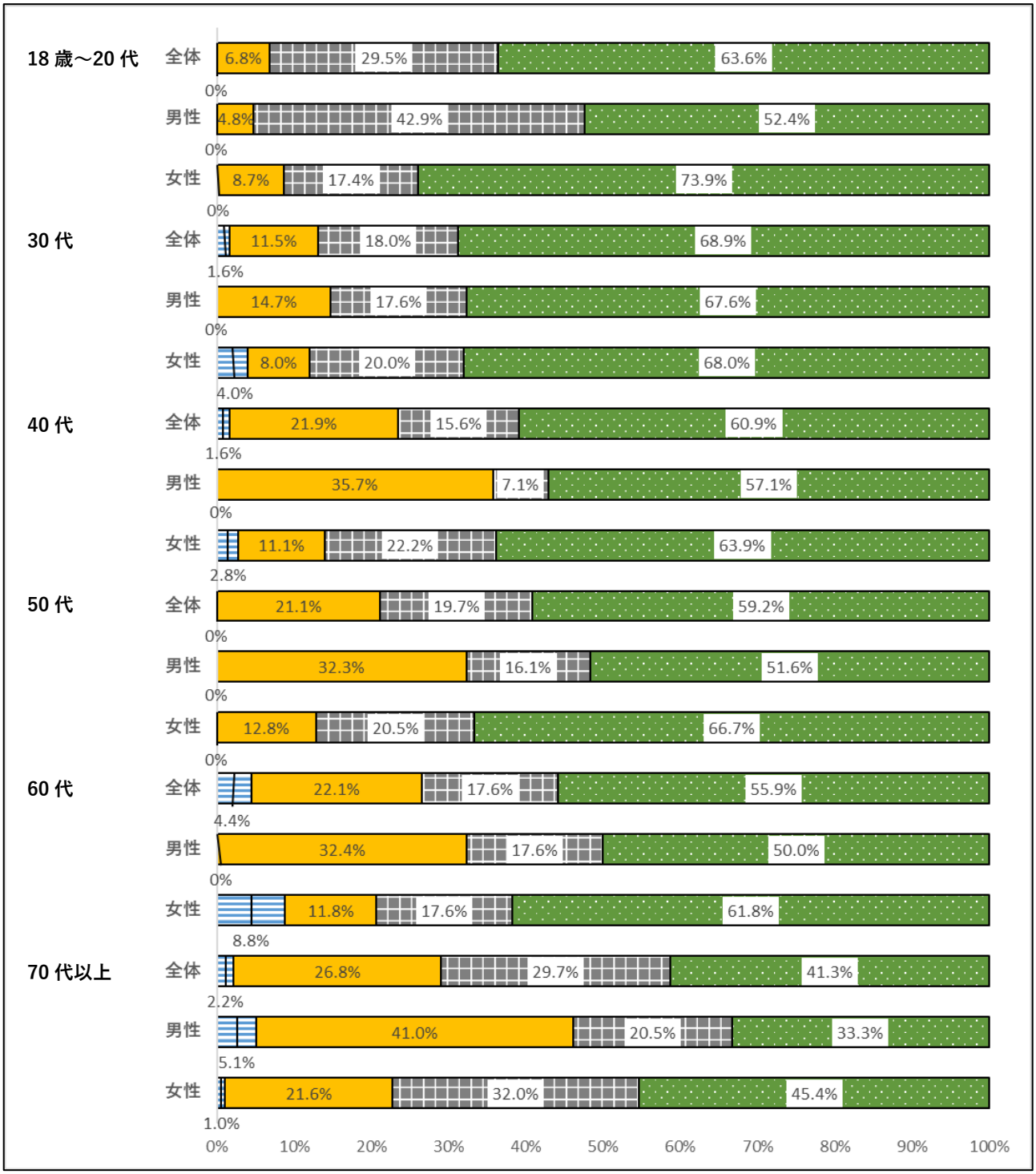
「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた者の割合を男女で比較してみると、「家事・育児は女性がするべきだ」（12.0 ポイント）、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」（14.9 ポイント）、「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」（10.7 ポイント）において、それぞれ男性の方が 10 ポイント以上高くなっている。



③年代・男女別

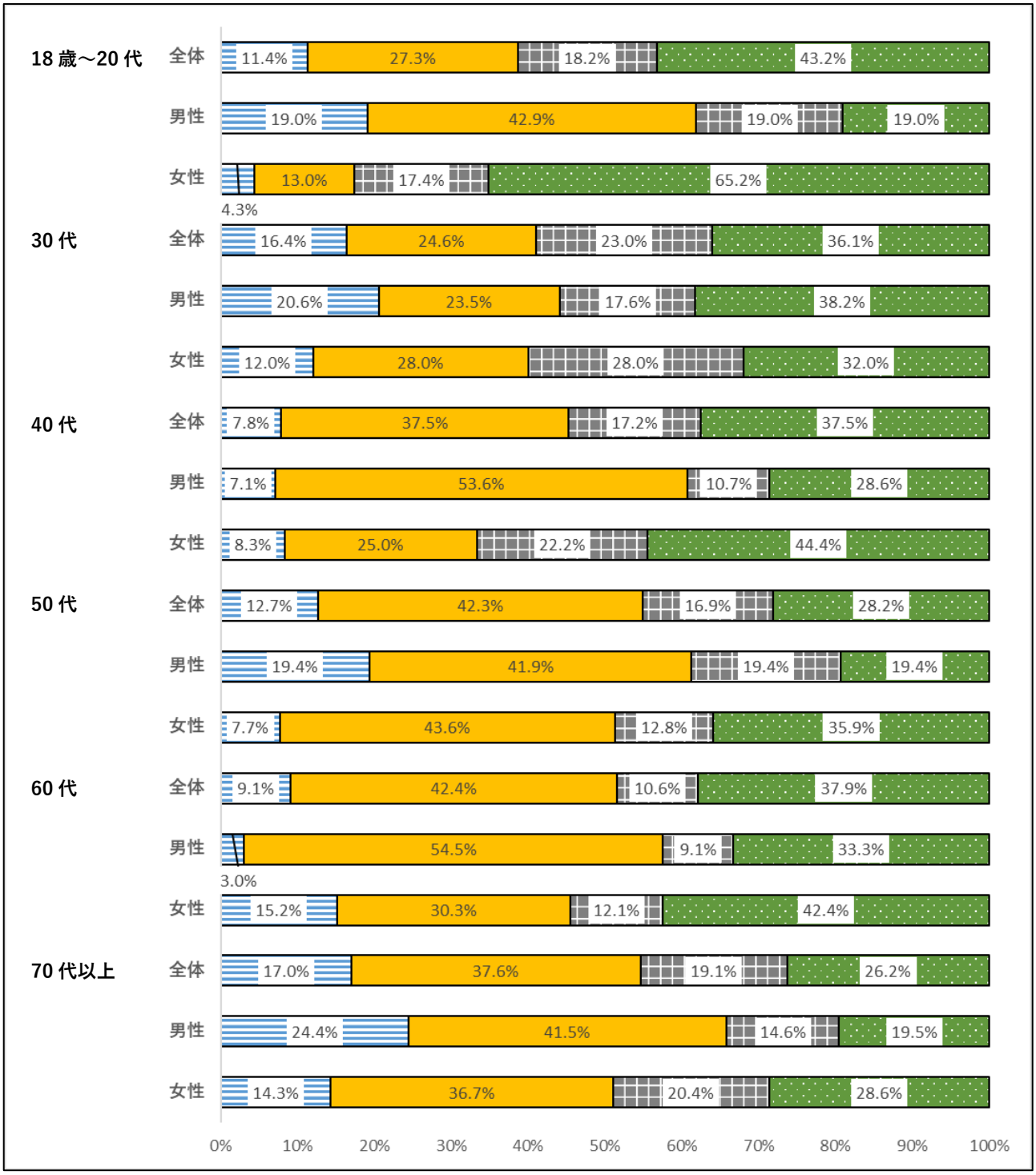
(1)家事・育児は女性がするべきだ

「家事・育児は女性がするべきだ」について、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合をみると、年代別では 70 代以上（29.0%）が最も高く、男女別にみると、70 代以上で男女間の開きが大きくなっている（男性 46.1%、女性 22.6%）。



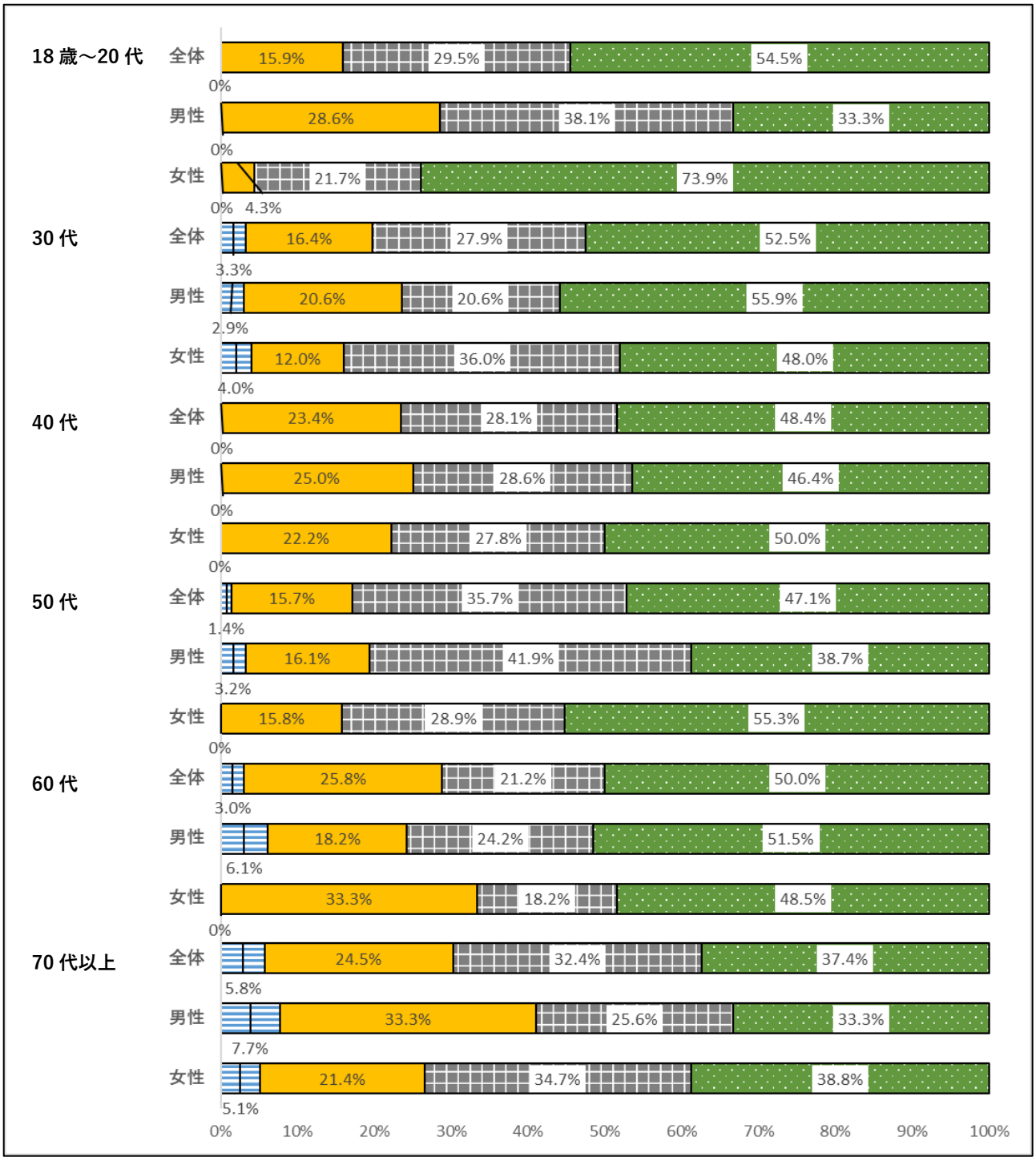
⑵男性は仕事をして家計を支えるべきだ

「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」について、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合をみると、年代別では 50 代（55.0%）が最も高く、男女別にみると、18 歳～20 代で男女間の開きが大きくなっている（男性 61.9%、女性 17.3%）。



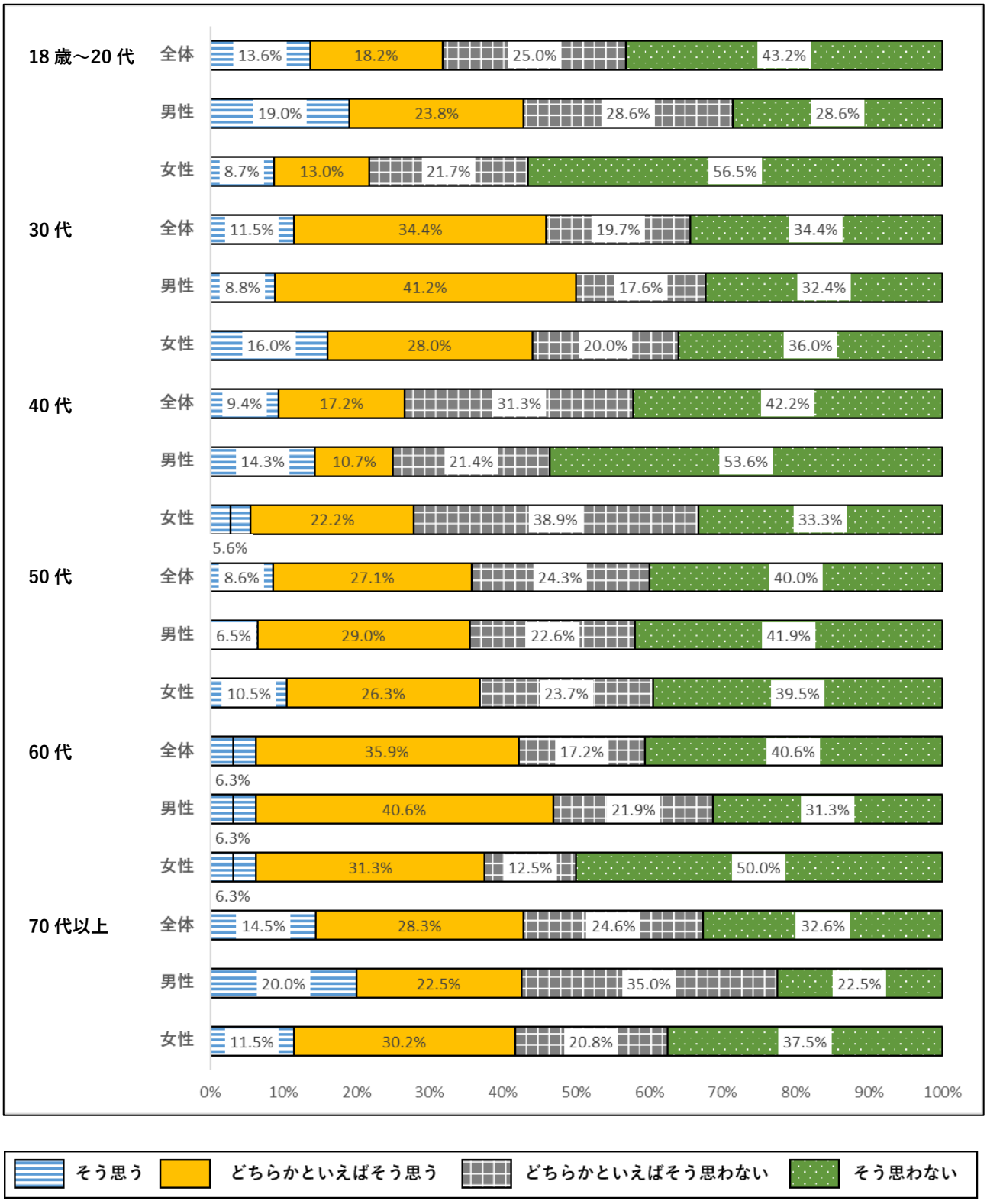
(3)共働きでも男性は家庭より仕事を優先すべきだ

「共働きでも男性は家庭より仕事を優先すべきだ」について、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合をみると、年代別では 70 代以上（30.3%）が最も高く、男女別にみると、18 歳～20 代で男女間の開きが大きくなっている（男性 28.6%、女性 4.3%）。



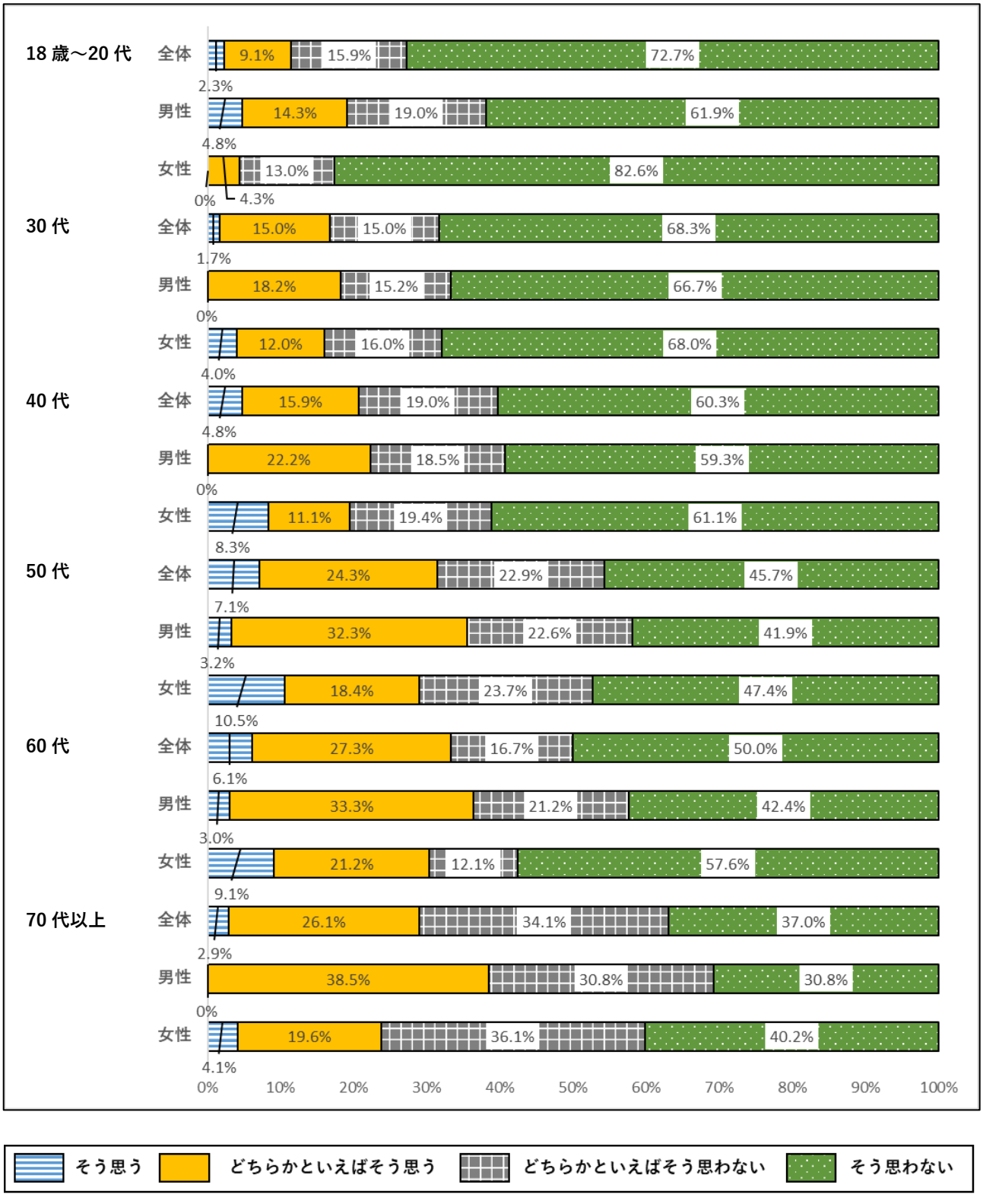
(4)女性は結婚によって経済的に安定を得る方が良い

「女性は結婚によって経済的に安定を得る方が良い」について、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合をみると、年代別では 30 代（45.9%）が最も高く、男女別にみると、18 歳～20 代で男女間の開きが大きくなっている（男性 42.8%、女性 21.7%）。



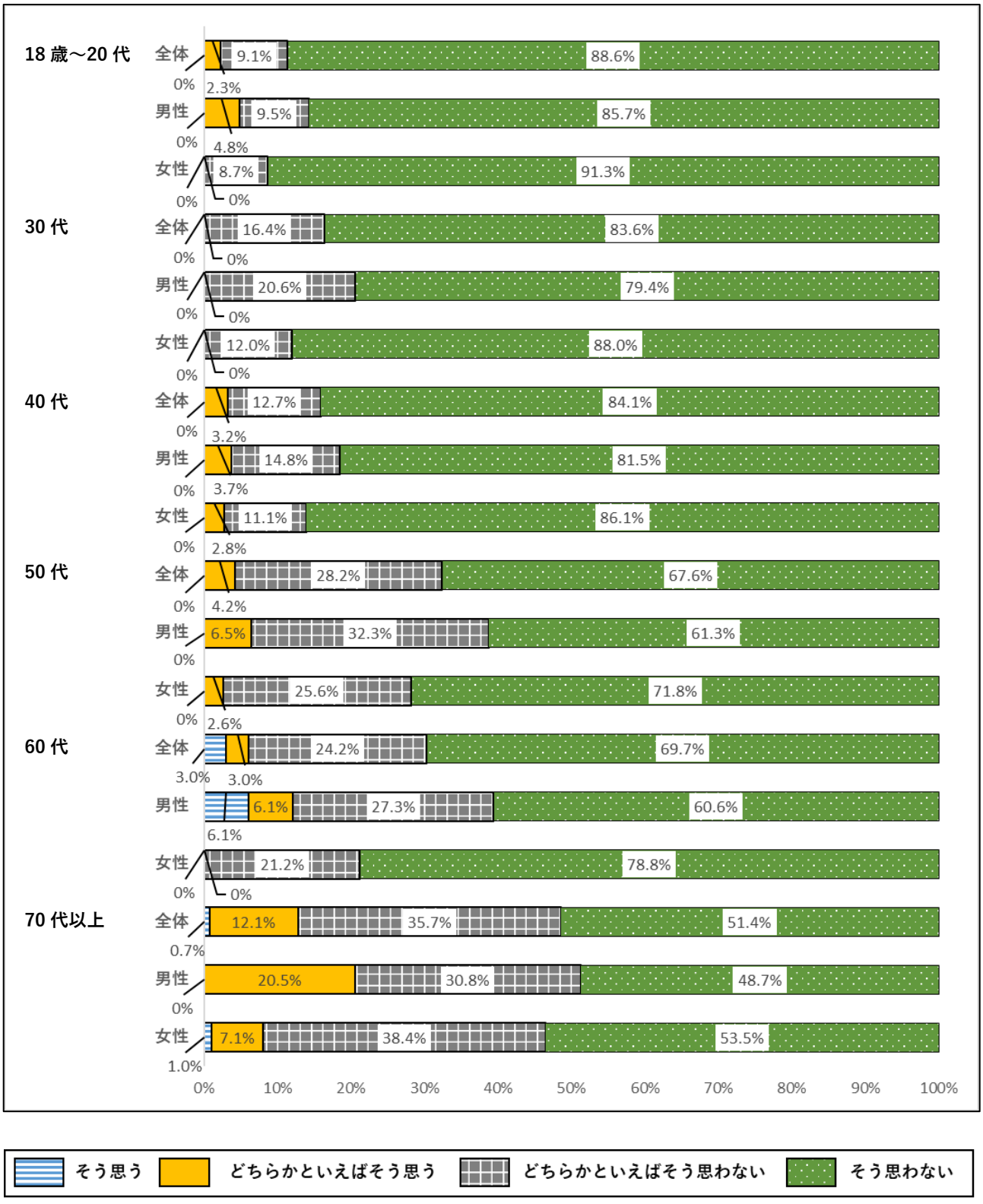
(5)親せきや地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ

「親せきや地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」について、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合をみると、年代別では 60 代（33.4%）が最も高く、男女別にみると、18 歳～20 代と 70 代以上で男女間の開きが大きくなっている。（18 歳～20 代の男性 19.1%、女性 4.3%、70 代以上の男性 38.5%、女性 23.7%）



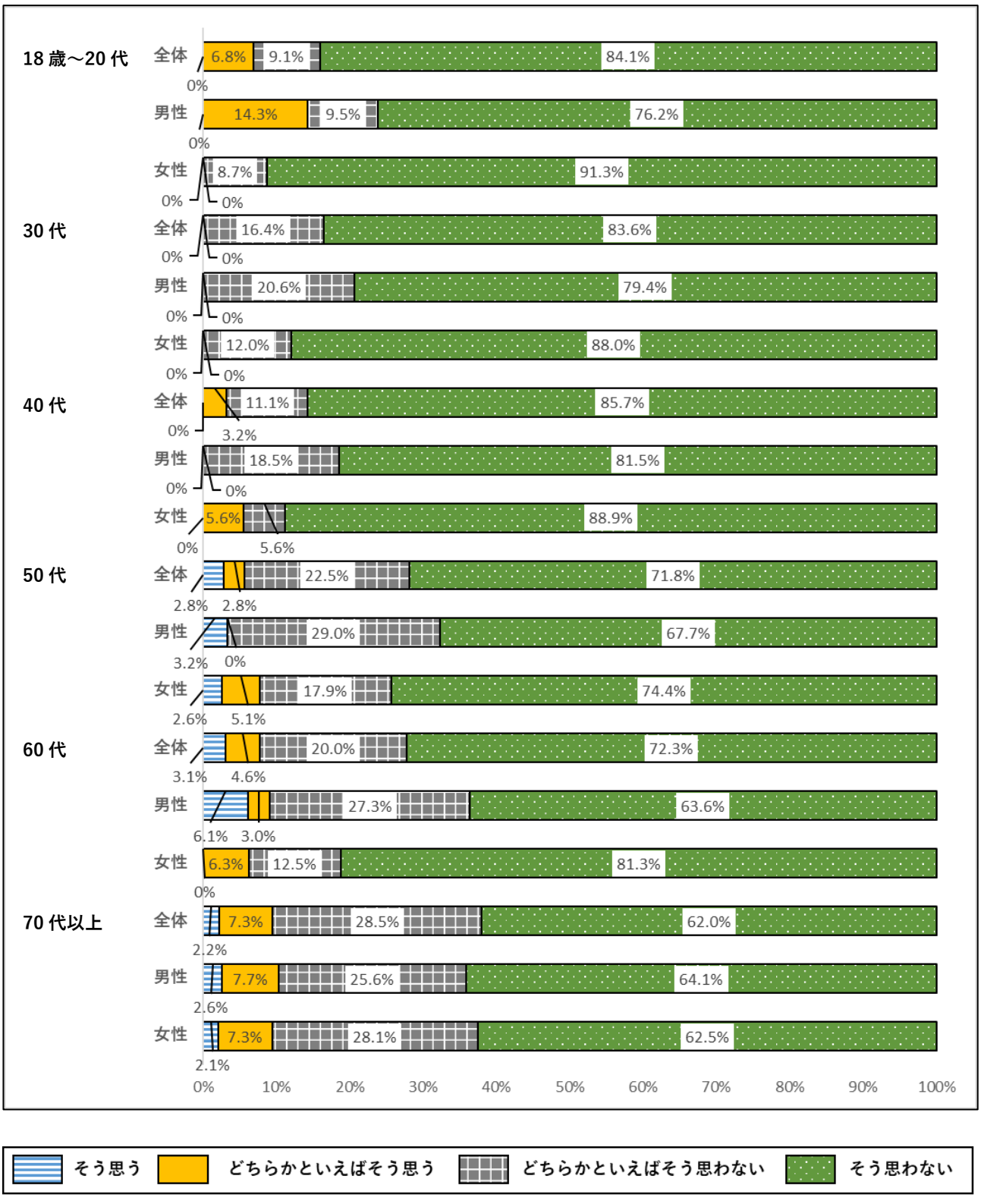
(6)実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ

「実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ」について、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合をみると、年代別では 70 代以上（12.8%）が最も高く、男女別にみると、70 代以上で男女間の開きが大きくなっている（男性 20.5%、女性 8.1%）。



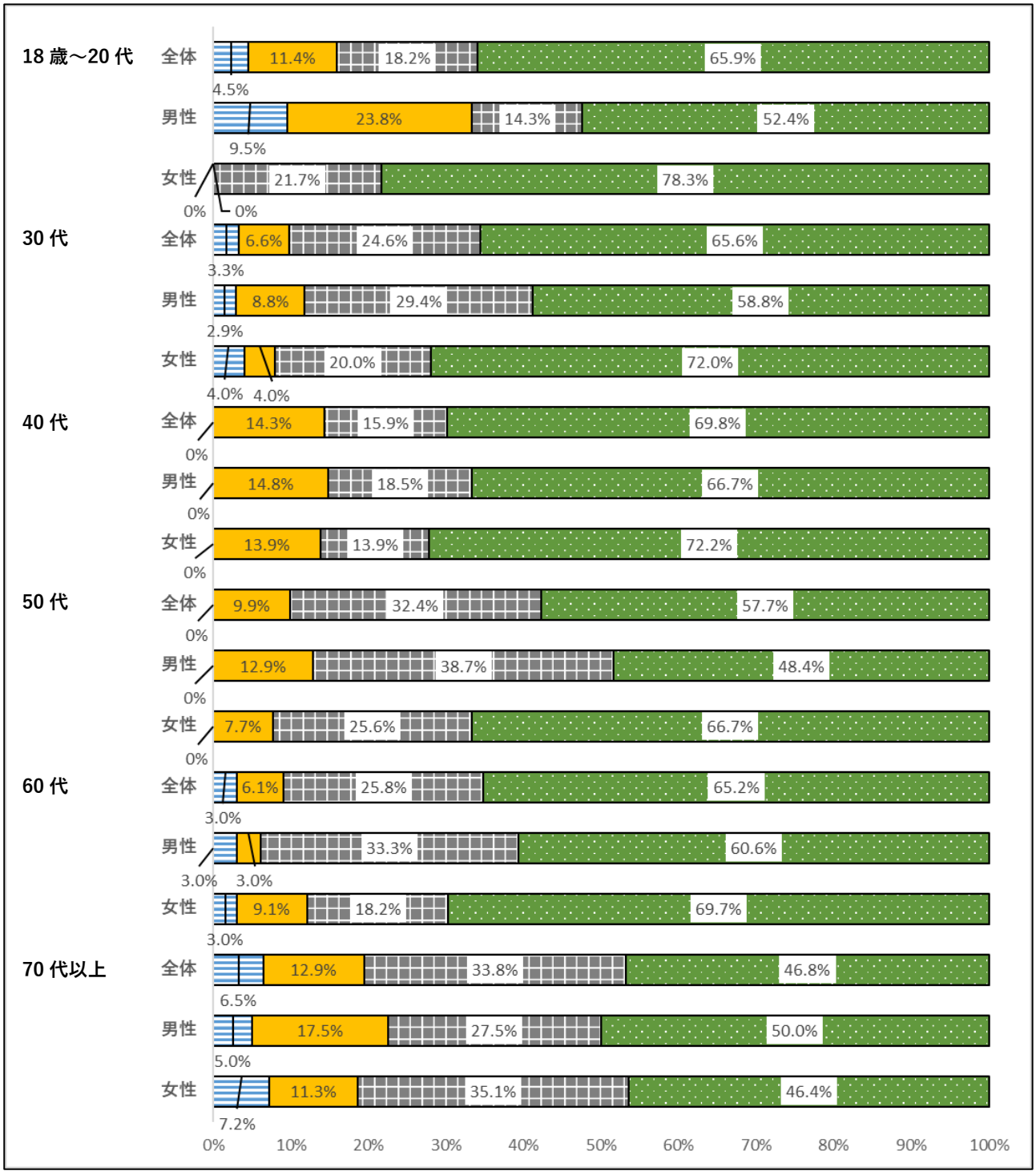
(7)学級委員長や生徒会長は男子が、副委員長や副会長は女子の方が向いている

「学級委員長や生徒会長は男子が、副委員長や副会長は女子の方が向いている」について、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合をみると、年代別では 70 代以上（9.5%）が最も高く、男女別にみると、18 歳～20 代で男女間の開きが大きくなっている（男性 14.3%、女性 0.0%）。



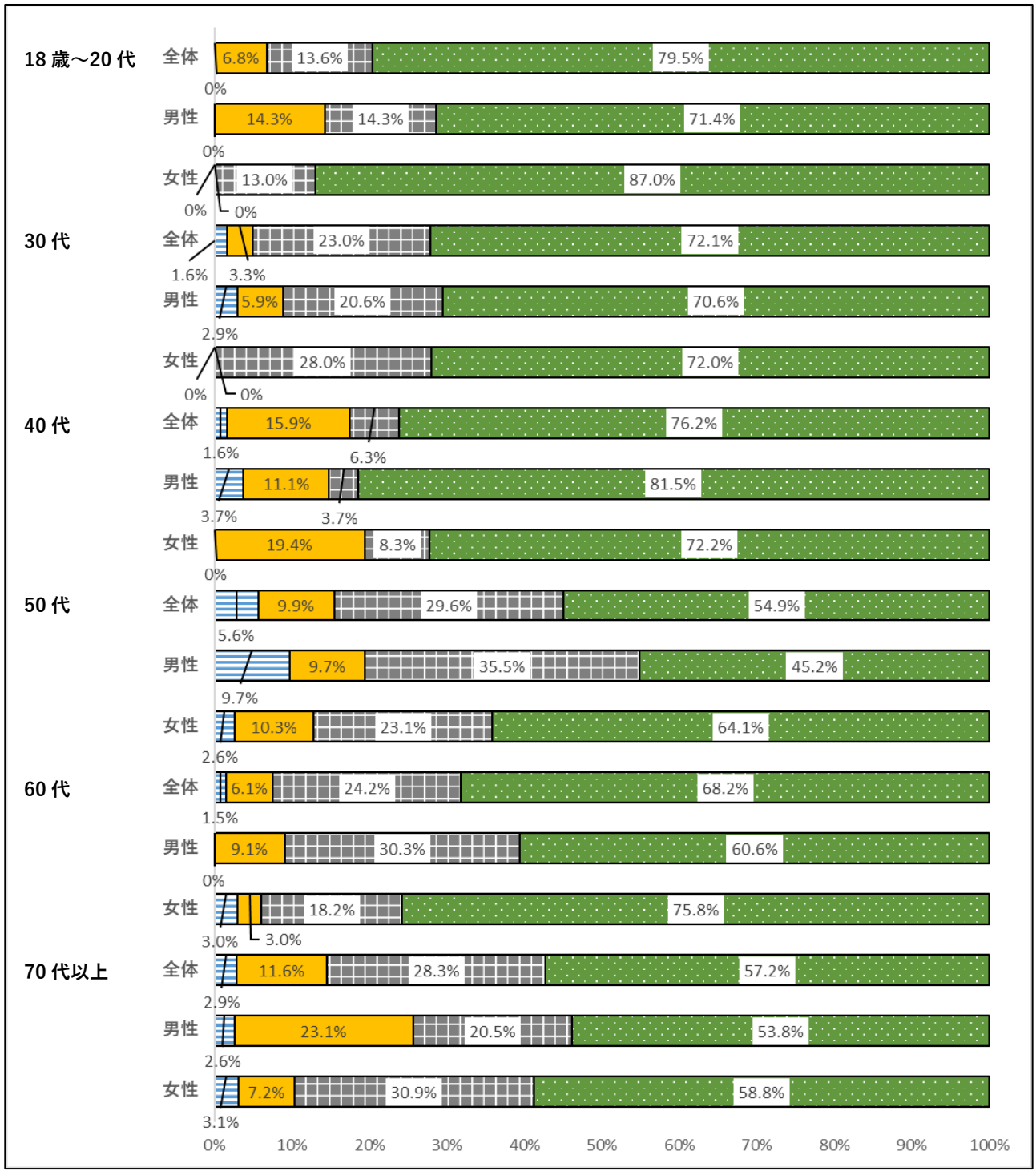
(8)組織のリーダーは男性の方が向いている

「組織のリーダーは男性の方が向いている」について、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合をみると、年代別では 70 代以上（19.4%）が最も高く、男女別にみると、18 歳～20 代で男女間の開きが大きくなっている（男性 33.3%、女性 0.0%）。



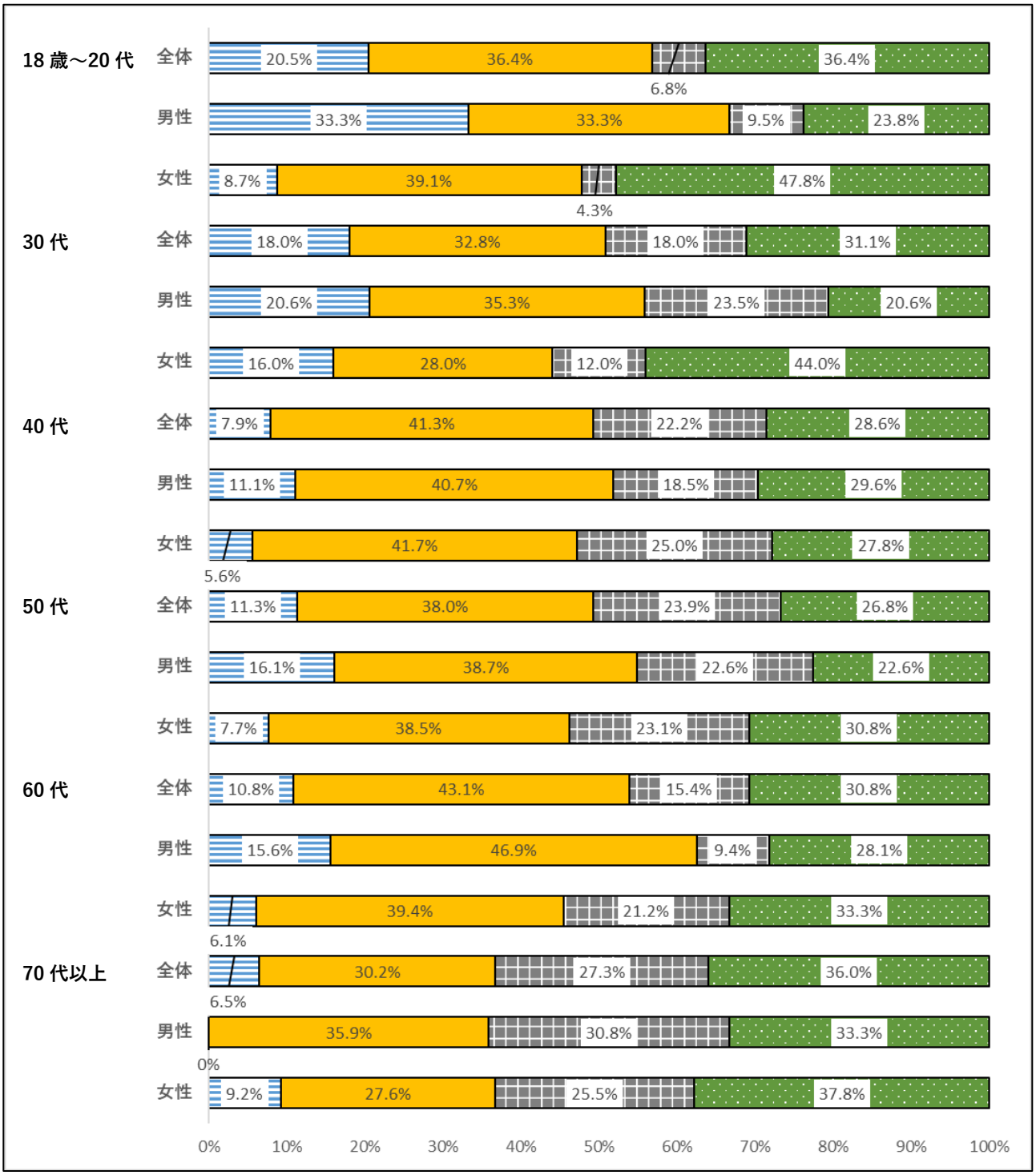
(9)仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い

「仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い」について、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合をみると、年代別では 40 代以上（17.5%）が最も高く、男女別にみると、70 代以上で男女間の開きが大きくなっている（男性 25.7%、女性 10.3%）。



(10)育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない

「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」について、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合をみると、年代別では 18 歳～20 代（56.9%）が最も高く、男女別にみると、18 歳～20 代で男女間の開きが大きくなっている（男性 66.6%、女性 47.8%）。

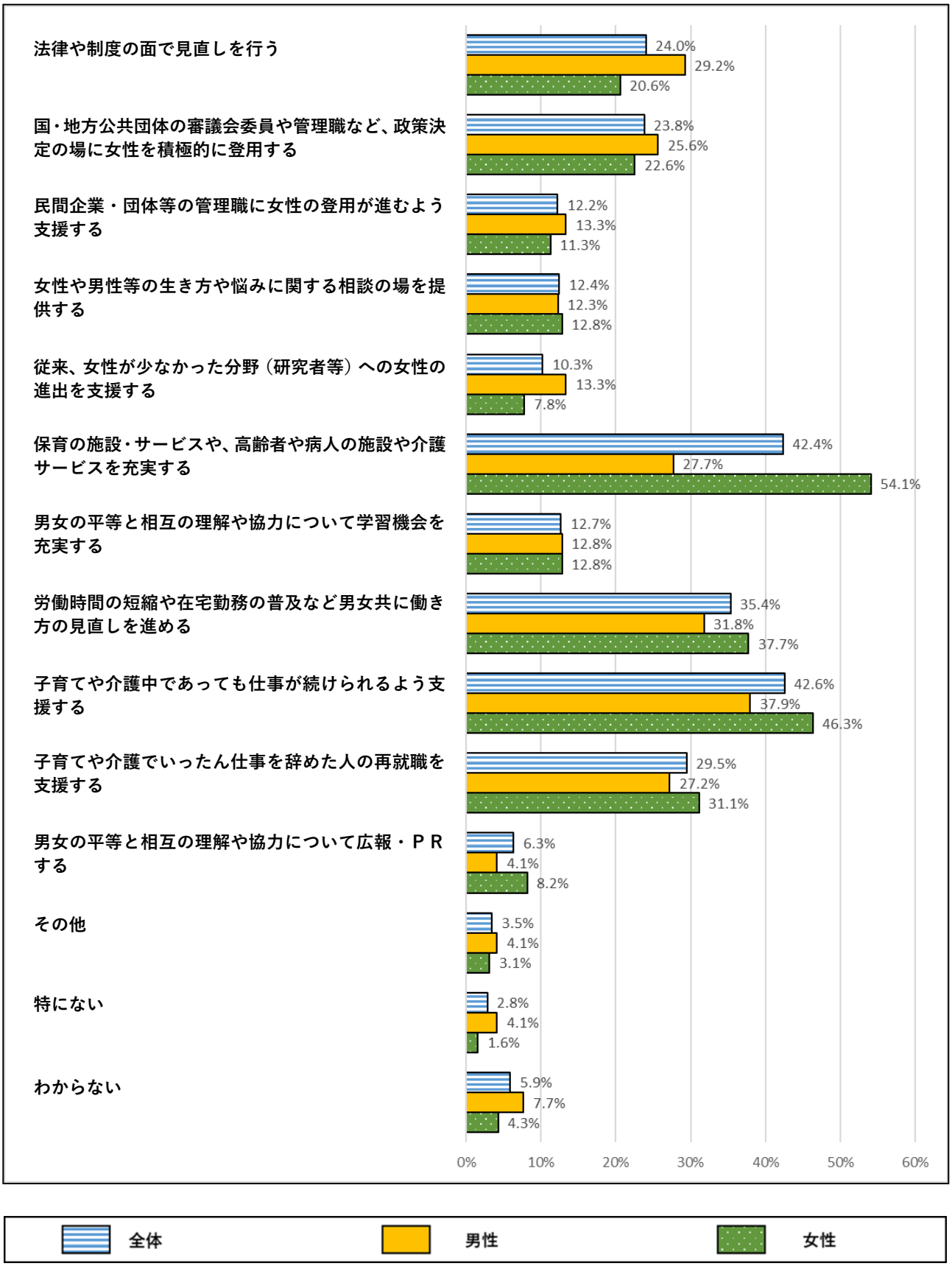


＜Ⅶ. 男女共同参画社会に関する行政への要望について＞

設問15　男女が性別等にかかわりなく、自らの意思によって個人の能力と個性を最大限に尊重し、社会のあらゆる分野に対等に参画し、共に責任を担う社会を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるものを３つまで選んでください。

「男女共同参画社会」を実現するために、今後行政はどのようなことに力を入れていくべきか聞いたところ、全体では「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」（42.6%）が最も多く、次いで「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」（42.4%）、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」（35.4%）の順となった。男女別にみると、男性は「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」（37.9%）が最も多く、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」（31.8%）、「法律や制度の面で見直しを行う」（29.2%）の順となっている。女性は「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」（54.1%）が最も多く、次いで「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」（46.3%）、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」（37.7%）の順となっている。

保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」については、女性の方が男性より 26.4 ポイント高くなっている。


法律や制度の面で見直しを行う
24.0%
29.2%
20.6%
国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
23.8%
25.6%
22.6%
民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
12.2%
13.3%
11.3%
女性や男性等の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
12.4%
12.3%
12.8%
従来、女性が少なかった分野（研究者等）への女性の進出を支援する
10.3%
13.3%
7.8%
保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
42.4%
27.7%
54.1%
男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する
12.7%
12.8%
12.8%
労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める
35.4%
31.8%
37.7%
子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する
42.6%
37.9%
46.3%
子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
29.5%
27.2%
31.1%
男女の平等と相互の理解や協力について広報・ＰＲする
6.3%
4.1%
8.2%
その他
3.5%
4.1%
3.1%
特にない
2.8%
4.1%
1.6%
わからない
5.9%
7.7%
4.3%
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
全体
男性
女性



奥　州　市